

第3次 * 混血桃色通信 * 第1号

続. 現代歌情

唄って... いつかのあの歌

《 Keep on Singin' 》



●制作 / 平田泰祥。内海陽子。藤田真男。浜部良典。村上知彦。池田博明。塚田嘉信。

●企画 / 平田泰祥。村上知彦。藤田真男。

●編集。発行 / 池田博明

●楽譜協力 / 藤田真男。福岡章子。

●資料協力 / 藤田真男。高村賢治。平田泰祥。高並真也。館田芳彦。

●執筆 / 藤田真男。大森一樹。平田泰祥。村上知彦。佐々木毅。山内豊。鉄屋彰子。北風哲。徳木吉春。原田泰。高村賢治。池田博明。秋本鉄次。

●発行所 / 札幌市東区北12条東1丁目 中川勘蔵方 (池田)^{YOTA}

●発行日 / 昭和49年(1974)9月18日。水曜日。

●各自 PINK の表紙をつけて仕上げるべし。表には、好きな歌手の写真を貼るもよし、各々創意工夫をこらされたし。

51	<p>越後獅子の歌・私は街の子はばりの花売娘・あの丘 越えて(ひばり)。僕は特急の機関士で(三木鶏郎)。 リラの花咲く頃(岡本敦郎)。アルプスの牧場(灰田)。 ヤットン節(久保)。東京シュー・ジャンボーイ(賤テル子)。 上海帰りのリル(津村謙)。野球小僧(灰田)。黄 色いリボン(久慈あさみ)。(「トンコ節」再発表)</p>	<p>紅白歌合戦(1.3) (スライム) ラジオの民間放送 開始(9.1)</p>	<p>逆コース。ノーコメント。社 用族。声優。アタハン。お BBS。人造米。炭抗節。ア 軍艦マーチ。文庫本ブーム 整形美容。草月流。あ じゃぱー。山村工作队</p>
52	<p>憧れの郵便馬車(岡本)。テネシー・ワルツ・ソー・ヤン グ(江利チエミ)。こんな私じゃなかったに・ゲイシャワ ルツ(神楽坂はん子)。陽気な魂り鳥・リンゴ追分 (ひばり)。白虎隊(霧島)。山のけむり(久男)。ああ モンテンパの夜は更けて(はま子。宇都美清)。弥太 郎笠(鶴田浩二)。赤いランプの終列車(春日ハ 郎)。ドミノ。火の接吻(パギ・葉山)。娘十九はまだ 純情よ(コロムビア・ローズ)。</p>	<p>「冗談音楽」(「日曜 娯楽版」が「エモア 劇場」と改名(6.25) 対田平和・佐保兩条 約発効=GHQ禁止 (4.28) 中央合唱団創立四 周年記念音楽会(12)</p>	<p>血のメデー。球根裁 培法。栄養分析表。チ ター。チャンバラ映画。女 剣劇ブーム。ボクシングブ ーム。三等重役。山びこ 学校。若返り法。マン ゲーム(〜56)。</p>
53	<p>ハワイの夜。街のサンディッチマン(鶴田)。ロマンス 雪の降る街を(高英男)。元気でねさよなら(青木光一)。 思い出のワルツ。遙かなる山の呼び声(雪村いづみ)。 見なで頂戴お月様。こんなベッピンみたことない (神楽坂)。花の三度笠(小畑)。落葉しぐれ(三浦 光一)。君の名は(織井茂子)。雨降る街角(春日)。 君いとしき人よ(久男)。ふるさとの燈台(田端)。 五木子守唄(照葉)。</p>	<p>NHKテレビ放送南 始(2.1) NTV(初の民間放 送=CFのみ)放 送開始(8.28)一推 定受像機台数3600台 53年日本のうたごえ 祭典(うたごえは平和か)</p>	<p>八頭身。ミネラル。1/4 ンコ。トニー谷。真知子巻 き。ハッピーアーンスタイル。 緑の羽根。ハトの街。 ファッションモデル。「君の 名は」。雑誌「平凡」百 万部突破。</p>
54	<p>黒百合の歌(織井)。高原列車は行く(岡本)。青いカ ナリヤ。オーマイパパ(いづみ)。君は遙かな(佐田 啓二。織井)。忘れ得ぬ人(久男)。湯の町椿(神 楽坂)。ひばりのマドロスさん(ひばり)。お富さん (春日)。ウスクダラ(チエミ)。おれとと共に(津村 吉岡妙子)。哀愁日記(ローズ)。初めて来た港(藤 島恒夫)。春の舞妓。岸壁の母(菊池)。初恋ワルツ (野村雪子)。原爆許すまじ</p>	<p>モンド-来日(2) 「エモア劇場」再 び政府の不渉を受け 中止(3.14) 文化放送「放送禁止 歌謡曲-覧」発表(6) (11月ラジオ東京,12月 ニッポン放送モ(ならう))</p>	<p>死の灰。プロレスブーム 洗脳。パートタイム。カ メラブーム。ヤロビ農法。レ バー。新書。「週刊朝日」 百万部突破。映画「二十四 の瞳」。旧小学唱歌。 余劇俳優中村錦之助ブ ーム。</p>
55	<p>この世の花。りんどう峠(島倉千代子)。おんな船頭 唄(三橋美智也)。田舎のバスで(中村メイコ)。月が とても青いから(菅原都々子)。ガード下の靴みがき(宮 城まり子)。赤と黒のブルース(鶴田)。銀座の雀</p>	<p>グループ・キャップ形成 (4) ラジオ東京テレビ(KRT のちのTBS)放送開始 (4.1) 『暴力教室』 (8)</p>	<p>M+W時代。マンボス スタイルとチャチャ流行。 最低ネ。オトメ・ジョン 時代。LP時代。人生推</p>

CMソング
おはは
アマチ
マラン9月
桃色歌謡
時代
ツブズ・パン
ド急増(ツブ
ツブのビッグ
フォア結成etc)
ツブズ・クル
19-来日
「ゴツラ」

<p>60 誰よりも君を愛す(松尾和子・マヒナスターズ)。一本 刀土俵入り(三波)。月の法善寺横丁(藤島)。 アカツアの雨が止む時(西田)。ダンチョネ節・ ズンドコ節・さすらい(旭)。霧笛が俺を呼んで いる(赤木圭一郎)。潮来笠(橋幸夫)。月影の ナポリ・メロンの気持・月影のキューバ(森山加 代子)。達者でナ(三橋)。右難や節(守屋)。</p>	<p>日米新協定保条約調印(11) 三池争議(7・9)。 国会アモ-樺美智子死(16) 新安保条約自衛隊承認 [6・17] オリエント現代音楽集(9) 3人のアニメーション(10) 浅沼稲次郎刺殺(10) 「風流草譜」(11)</p>	<p>全学連。たっちゅん。 フランスで。落書きさん。 ク。インスタント時代。レ ンゾーム。ダンパー。 クレジットカード。朝日判 決。謝国権ゲーム。行動 右翼。ハクノ論争。</p>	<p>「赤玉キャー は90円」 「ハイカット のんじゅった」 CF5新スポーツ 「トリスを飲ん でハイハイへ行っ た」 「アサヒビル あつ」 「アムニエ アイデアル」 『ウエストサ 物語』</p>
<p>61 東京ドドンパ娘(渡辺マリ)。じんじろげ(森山)。 硝子のツヨニー(アィ・ツヨ・ツ)。北上夜曲(多摩幸 子とマヒナスターズ)。君恋し(フランク)。山のロザリア(ス リー・グレイセス)。コーヒールンバ(西田)。ス・ダラ節(植 木等)。北帰行・惜別の歌(旭)。川は流れる (中曾根美樹)。上を向いて歩こう(坂本九)。ラ ストダンスは私に(越路)。王将(村田)。恋してい るんだもん(島倉)。子供じやないの(弘田三枝子)。</p>	<p>嶋中事件(2・17) 「夢を追いましょ」(NHK) 「ツヨニー玉ボリデー」(N TV) [6] 釜ヶ崎を集団暴動(8) 「七人の罪人」(TBS) [10] 「テニスの神楽」 「アマ・カハリス」(N-TV)</p>	<p>物価倍増。時差出勤。 ケネディロック。ガンゾム。 ドドンパ。バチンガ。スク スク。酸素ボックス。酔 ばらい防止法。六本木族 睡眠薬遊び。柏嶋時代 三無事件。押し屋。黒字 倒産。空手ゲーム。</p>	<p>ツヨニー-藤尾 「遠くへ行きた い」 「野獣の青春」</p>
<p>62 五万節(クレツキヤリ)。江梨子(橋)。山甲の歌 (ダクダクス)。寒い朝(吉永小百合とマヒナ)。星屑 の町(三橋)。ハイそんまでよ(植木)。若いふたり(北 原謙二)。可愛いパイビー(中尾ミエ)。恋は神 代の昔から(島山みどり)。なみだ船(北島三郎)。 いつでも夢を(橋・吉永)。大学教員唄(守屋)。 下町の太陽(倍賞千恵子)。赤いハンカチ(石原)。 鳥音ち(田端)。霧子のタンゴ(フランク)。</p>	<p>テレビ普及率48.5% (受信機保有数1千万台) 「フランク」劇場(N TV)「スベクショー」(CX) 「みなで歌おう」(TBS) 「ごんもんや三度笠」(ABC) 堀江織-太平洋横 断(8)。「ひなクラゲ」 クラゲ」獲刊 [12]</p>	<p>ツイスト。産業スパイ。水 道方式。交通安全都市。 夢の超特急。千-37号。 ミル7ティーン。無責任 時代。</p>	<p>「野獣の青春」</p>
<p>63 出世街道(島山)。エリカの花散る時(西田)。島の ブルース(三沢あけみ)。長崎の女(春日)。見上げてご らん夜の星を(九)。高校三年生-修学旅行-学園広 場(舟木一夫)。東京五輪音頭(三波)。甲船(井沢 八郎)。美しい十代(三田明)。浪曲子唄(一節太 郎)。こんにちは赤ちゃん(梓みちよ)。</p>	<p>「鉄腕アトム」放映 [1] 「男娘」(NTV) [4] 「主婦善哉」(ABC) 「あはれと夜と音楽と」 (TBS)「底抜け脱線 ゲーム」(NTV) 「リトルレディ」少年雑誌 「マーカレット」創刊。</p>	<p>クチコミ。三ちゃん農業。 日本のかみつ王。中学教 人。カギ子。番長。小さ な親切。2DK。カワイ コちゃん。悪書追放運 動。過密ダイヤ。ボカ休 かまゆ。かまよ。そのようよ。 トキョー合戦。公南樓 査。名神高速道路。モッ ズ。みゆきスタイル。ワパ ンゲーム。蜂の巣城。消費 者モニター。トップレス水着。 VAN。JUN。「ひかり」号</p>	<p>テレビ・マン中の スポーツカーは 大手菓子メカ ーで。 駄菓子屋文 化崩壊。 「野獣の青春」</p>
<p>64 明日があるさ。幸せなら手を叩こう(九)。智恵子 抄(ロズ)。君だけを。十七才のこの胸に(西郷輝 彦)。東京ブルース(西田)。君たちがいて僕がいた(舟木 一夫)。東京(マヒナ)。ドミニク・ラ・ビア(ペー)。 お座敷ト唄(松尾とマヒナ)。愛と死をみつめて (青山和子)。東京の灯はいつまでも(新川二郎)。</p>	<p>「ひなこりひな」たん島(N HK)「木島則夫モ-ン グショー」(NET) [4] 「題名のない音楽会」(N ET)「ミュージック75」(CX) 「うず潮」(NHK)。</p>	<p>トキョー合戦。公南樓 査。名神高速道路。モッ ズ。みゆきスタイル。ワパ ンゲーム。蜂の巣城。消費 者モニター。トップレス水着。 VAN。JUN。「ひかり」号</p>	<p>「野獣の青春」</p>

<p>64 ひとつぶの真珠(弘田). 夜明けの歌(岸洋子). 何もいわないで(園まり). 忘れな朝をあなご に・リンデンバウム(梓). アンコ椿は恋の花 (都はるみ). 涙を抱いた渡り鳥(水前寺清子).</p>	<p>「ガロ」創刊(7) 「オバ ケの辰太郎」; 「サム イ伝」</p>	<p>東京オリンピック. 組練 力.</p>
<p>65 桑(イマリ). 女心の唄(バブ佐竹). まつの木小 唄(二宮ゆき子). 夏の日の思い出(日野てる子). 網 走番外地(高倉健). さよならはダンスの後に (倍賞). 哀愁海峡(扇ひろ子). ぬむの木の子守 唄(吉永). かわろかな・函館の女(北島). 愛し て愛して愛しあつたのは(田代美代子とマヒナ). あの娘と僕(橋). 赤いガラス(アイ). 東京流れ もの(竹越ひろ子). 星娘(西郷). 涙の連絡船 (都). 恋心(岸). 涙くんさようなら(マヒナ). 赤 坂の夜は更けて(西田). 知りたくなの(菅原洋一)</p>	<p>「アイドル」百花繚乱. 「スタジオ102」「IFM」「ア ブ・ヌ・ン」 「踊る歌で大合戦」(10) 「バニヤ・アストロウツツ ン」 「歌謡百年」(12) 「にほんのた」 「ナボロソノ」 「オールド」</p>	<p>セツ旅行. 青少年健全育 条例. 赤いイヤ. 声紋. エ ロダクツオン. ツルバネ. 0メートル地帯. 釣り堀. エレキゲーム. モンキーダンス. ライフル魔. ツェー. 歌屋 論争. 夢の島. パ平産. ポンドリック. 我愛病. 不 渡りカワイイ. みどりの窓. 番町エリート. 古都保存法</p>
<p>66 星影のワルツ(千昌夫). 君といつまでも(加山雄三). 唐獅子牡丹(高倉). いい湯だな(デュークエイセス). 骨まで愛して(城卓矢). 恍惚のワルツ(青エミ 奈). 星のフラメンコ(西郷). バラが咲いた(マイク 真木). おはなはん(倍賞). 夢は夜ひらく(園). 絶唱(舟木). 二人の銀座(山内賢. 和泉雅子). 霧氷(橋). いっぱんとこの唄(水前寺). こまち やうな(山本リンダ). 霧の摩訶湖(布施明). ラ グー-東京(黒沢明とロスガリモス). 若者たち(ガ ル-バルツゴーズ). 今日の日はさようなら(森山良子).</p>	<p>「ヒーロー」連続映画(1) 「ふるさとの歌」(4) 「現代の主題」(TBS) 「おはなはん」(NHK) 「若者たち」(CX) 「ビートルズ」</p>	<p>3C時代. 3DKCB族. 全学共闘会議(早大). あい りん地区. レミの会. ラボ教 育. 企業暴力. 代議ソリ ング. サウナぶろ. ナック. 黒い霧. マッチポンプ. ト・ポツ・ツョ. 万歳屋. 「氷卓」. 「巨人の星」</p>
<p>67 君こそわが命(水原). 小指の思い出(伊東ゆか り). 夜霧よ今夜もありがとう(石原). 恋のハレルヤ (黛ジュン). 世界の国からこんにちは. プレ・リヤト (ブルー・コムギャ). 真赤な太陽(ひばり)とブルー・コムギャ 世界は二人のために(佐良直美). 新宿ブルース(扇 ひろ子). 風が立っている(ザ・スベイダース). モナリザ の微笑. 君だけに愛を(ザ・タイガース). 帰ってきた ヨーロッパ(フォーク・ワルセイダース). 知りたくなの.</p>	<p>「ピットマン」 「ツヨク」</p>	<p>未来学. 蒸発. 青年の 船. 国葬. 紙上結婚 式. 万国博. 怪獣ゲーム 爆破狂. コラ・サ号. イ エ族. ヒッピー族. 原宿 族. フーテン. アングラ. マ クル-ハン理論. ケロヨ ン. 戦無派. ツーカー族. ミッドナイト・ロック.</p>
<p>68 伊勢佐木町ブルース. 長崎ブルース(青江). ゆうべ の秘密(小川知子). 受験生ブルース(高石友世).</p>	<p>東京パトロール. 信濃町から 新宿まで. フォークソング</p>	<p>サイケテリック. 昭和元禄 黄巻. 全平産. ケバ棒.</p>

68 星屋のワルツ(千). 花と蝶(森健一). 恋の季節(ピンキーとキラーズ). 剣路の夜(美川憲一). 旅路のひとよ(鶴岡雅義と東京ロマンス). 天使の誘惑夕月(鮎). 知りすぎたのね(ロスインディオス). 小さな日記(フォセイツ). 今は幸せかい(佐川). 廃墟の鳥(タイガース). 三百六十五歩のマーチ(水前寺). プールライトヨコハマ(いまだあゆみ). 友よ. チューリップのププリケ. 山谷プルス. くそくらえ節. がいごの唄(岡林信康). お父帰れや.

歌いながら行進(フォクゲリラ) [2]
「お前のゴールデンショ」(CX) 前田法彦-「夜のヒュースタイン」(CX)
「青春」(12ch)
「3時のあなた」男
「わらいは」(CX)

ノンポリ. 五月病. タレ
ント候補. 山谷解放委員
会. 文化庁. 郵便番号.
イサナギ景気. ハレンチ.
失神. ツッテック. 構造
三職. コント55号
和製ポップスとグループ
サウンス.

藤純子
「紅牡丹博
徒」
「お前は誰
ぶはな男だ」
「日本解放戦
線. 三理城の虜

69 白いブランコ(ピロ・パンパン). 風(チューバルツ). 涙の季節. 七色のしあわせ. 星空のロマンス(ピンキラ). 長崎は今日も雨だった(内山田洋とクールファイブ). 時には母のない子のように(カルメン・マキ). 禁じられた恋(森山良子). 夜明けのスキット(由紀さおり). どしゃぶりの雨の中で(和田洋子). ある日突然(トリエモ). 人形の家. 私が死んだら(弘田). 恋の奴隷(奥村千ヨ). 昭和プルス(クルバル). 新宿の女(藤圭子). フランシーヌの場合は(新谷のり子). 黒猫のタンゴ(菅川あさみ). 白い色は恋人の色(バツイツ&クリス). 喧嘩のあとでロケを(あゆみ). 真実一路のマーチ. 東京でダメなら(水前寺). 今日でお別れ(菅原). いい心持の幸せならば(佐良). 愛の化石(浅江川子).

「巨泉 前武ゲバゲバ90分」(NTV)
「寝番組をぶ. 飛ばせ」(NTV) 「8時だよ! 全員集合」(TBS)

3D時代. 職住血闘.
フォクゲリラ. 赤軍派.
反博. TELS. オオモ
イツ. やたぜ! バイビー.
野球ケン. ニコロメ.
ゴメ給食. ナンセンス.
ドツカル. 移動大学. 邦
と驚くタゴロー. 断絶.
コンピュータ・プルギー.
ビニール公署. プラスチ
ク公署. 逃走心得. 直
感人間. 歌突曲. 反戦
自衛隊員. 水平思考. フ
オク連合. IDチックア
マル

フォク→カ
レット・ポップス
化していく.
「お前はバカ
男」
「重訓. 女は度
胸」
学園で. 様
々な事象に
「ん! の声
↓
「大学の喧嘩
に俺が臨時
措置法」
(69.8.)

何故. こんな所で. このPHCのタイトルについて等書くのか—それは. 詠た.—と言っておきましょ—か.
YASがPHCヤロウ! と言い出して. MAOが. では. 特集として. 純. 現代歌情を. サブタイトル. <Keep on Singin'> (ルン・レイのヒット曲) を. と提案 (現代歌情) は. GYAのライン・アップに入っていたものを. 編集を. YOTAが引き受けることにしたのだ. <唄って... いつものあの歌> は. 「野良猫ロック. セックスハンターの根菜衣子のセリフで. GYAの提案. とにかくPHC万才!

70 逢わねに愛して(クルファイト). 若三四郎(若原). 女のプルス. 圭子の夢は夜ひらく. 命預けます(藤圭子). 都会(タイガース). あなたならどうする(あゆみ). 四つのお嬢い(ちあきなおみ). 経験(辺見マリ). 京都の恋(若ゆう子). 男と女のお話(日吉ミ). 愛は不死鳥(布施). 笑って許して(和田). 手紙. 生きがい(由紀). 走れコウタロー(リルネ・シュガー). 愛は傷つきやすく(ヒビとロザンナ). 白い蝶のサンバ(加代子). 希望(岸). 雨が止んだら(朝白雪路). しんと旅情(加藤登紀子). 大勝負(水前寺). 京都慕情(若ゆう子). 誰もいない海(トリエモ). 踏踏踏踏踏. 中途半端はやめて(千ヨ). 女の意地(西田).

一坪運動. 情報公害.
ソレツ社員. ニアミス.
メデアポリス. 三無主義.
ゆるのり. 苗代屋い. ス
ポコン路線. ウーマン
リブ. ツッテック. ビー
イン. 歩行者天国. 不幸
の手紙. SLゲーム. プリ
タニカ商法. 地下街ブ
ム. なんしかしる主義.
四心三登峯. 三島事件.
公害共闘.

「野良猫ロック
セックスハンター」

現代歌情

『朝日ツギガシ』71.6.25 (Vol.13 No.23) ~ 72.3.10 (Vol.14 No.10) 33回

論者	写真撮影者 (又はさし絵師)	表題の歌 (歌手)	備考	発行 月日
大和屋 竺 東海林さだお 井上ひさし	朝倉俊博 橋本照嵩 朝 倉	儂だらけの人生 (鶴田浩二) ガンバラナクッチャ (CMソング) また逢う日まで (尾崎紀世彦)	『儂だらけの人生』、今日があなたと 若鷺の歌、港町ツギガシ、イン ンガムド、別れの一本杉、女 船頭唄、卒業せよ、棄てる ものがあるうちはいい、北に 消え行く、約束、昨日今日明日 『マルジュ』『モンタレー・ポップ・ フェスティバル』、ペン・ツェーンの 『スキー・ドラゴン』	6.25 7.2 7.16
田川 律	橋 本	長い夜 (ツカゴ)	岸田智生の「村娘於松之像」 「震子の像」、夢の「血上の少 女」、朝来節、北斎、宵待 草	7.23
鈴木清順	朝 倉	さんざの値打ちもない (北原ミレイ)	竹田の子守唄、宇目のうた げんか、五木の子守唄	7.30
秋田明大 橋本照嵩	朝 倉 橋 本	練鑑ブルース 子守唄のふるさと	朝はどこから、こいのぼり、め んこい仔馬、恋のハルシヤ、天 使の誘惑	8.6 8.13
井上ひさし	朝 倉	とても不幸な朝が来た (黛ジュン)	函館の女、村松剛・英子の CF「私たちはなにかをいせつな ものを失くすにはいけないのか」 スパイダーズ、小坂一也、戦 争を知らない子供たち、ピョン ロワ、赤い鳥、三上寛、 ピエール魔の少年、ものな子守 唄、おど、夢は夜ひらく、 『嵐を呼ぶ知床岬』、男が	8.20-7
草森紳一	橋 本	私の城下町 (小柳ルミ子)	死んで行く時に 風流宿場太郎記・ビュー ティフルお新の断、曲師一 鹿島健雪、春日井梅鶯	9.10
大和屋 竺	朝 倉	とうにかなるさ (かまやつひろし)	富貴豆	9.17
嵐山光三郎	橋 本	はぐれ町 (安藤昇)		9.24
井上ひさし	橋 本	浪曲一代 (水城ゆう子)		10.1
鈴木清順 吉岡 忍	朝 倉 橋 本	東京流れる者 (竹越ひろ子) 戦 友		10.8 10.15

小林信彦	「渡り鳥いけた 帰る」のスケール	さすらい (小林旭)	月光仮面、ついてくるかい、 『太陽の墓場』、〈渡り鳥〉 〈流し者〉シリーズ、『不敵に笑 う男』『私が棄てた女』、嵐寛 の『鞍馬天狗』『天狗倒し』、 『馬鹿ままだし』	10.22
井上ひさし 滝田修	朝倉 橋本	涙から明日へ (堺正章) おんなの朝 (美川憲一)	道化もの 中国の歌題不詳(世界は 青年の者だ)	10.29 11.5
嵐山光三郎 小林信彦	朝倉 勝山泰佑	遠くはなれて子守唄 (白川奈美) この胸のときめきを (E.プルスリー)	『暴力教室』『やさしく愛し て』『キューリー夫人』、ロック アウンド・ザ・クロック; 他に 書いてはブレター、カスリー、 パット・ブーン、ビートルズ、青 木雨彦の『昭和ひびいた社員』	11.12 11.19
板谷翠 井上ひさし 山田宏一	朝倉 橋本 和田誠	忘れていた朝 (赤い鳥) 港の別れ唄 (クルファイヴ) はるかなる山の呼び声 (雪村いづみ)	『L.E.N.』 思い出の700、 天才バカボン、『赤と黒』 ツァンバヤ、ホー・マイ・パパ 青いカナヤ → ベリー・ゴモ、 エド・スミュー、夕ナツア、 ジュン・バリ、美しい夢	11.26 12.3 12.10
田川律 小林信彦	勝山 朝倉	世界革命戦争宣言 (頭脳警察) マリン・モノー・ノー・リターン (野坂昭如)	阿木由起夫 (=野坂)、『E 口車師たち』『火垂るの墓』 『不思議な国のアリス』	12.17 12.24 -31, '72
山野浩一	朝倉	雨の御堂筋 (欧陽菲菲)	ベッツィーズ、J.G.バード の『次んだ世界』『結晶世界』	1.7
嵐山光三郎 井上ひさし	小林泰彦 橋本	潮風のメロディー (南沙織) お金をちょうだい (美川憲一)	十七歳 大阪の夜、みゆみゆ、女と バラ、霧のバラード、剣路の夜	1.21 1.28
松本守正 安田南 井上ひさし	橋本 和田 橋本	北国の青い空 ハロー・グッドバイ (ビートルズ) 民謡	庄内おばこ、方言、横井 串本節	2.4 2.11 2.18

藤田真男	勝山	夜が明けたら (浅川マキ)	赤次馬, 世紀末的の不協和音, 『赤頭巾ちゃん気をつけて』 『イッツライター』 『叛逆のメロディー』 『けんかえれじい』 林静一の『花の紋章』, カサハチの『夜が明けたら』 『男の紋章』 ツルズ, 『殺しの烙印』, 林の『まっかっロック』, 『瘦り鳥』 ツルズ, もがが枯木で, 『女子学園』, 青春の詩, 『日本の悪霊』 『戦争と人間』 『恋狂い』	2.25
小林信彦	橋本	子連れ狼 (橋幸夫)	『子連れ狼』 『気まぐれ渡世』 『大菩薩峠』 『銀座旋風児』 嵐寛寿郎, 若山富三郎, 鶴田浩二, 高倉健, 『極道』 ツルズ, 『悪親分 対代貸』, 『映画』 『真夏の夜のムース』 『ロビン』	3.3
田川 律	勝山	主の祈り (マヒIP. ユックスン)	『真夏の夜のムース』 『ロビン』	3.10

▶ 続. 現代歌情 ◀

論者	歌 (歌手)	備考	掲載誌
藤田真男	カレーライス (遠藤賢司)	ニール・ヤング, 『いちご白書』 (C.S.N&Y), ハラキリ	『純粋桃色通信』 療刊準備第2号 (72.3.14)
村上知彦	清怨夜曲 (あがた森魚)	赤色エッセー, 『恋狂い』 『しなやかな獣たち』 『刺青一代』 『らしゃみあり』 『雨のオランダ坂』	『純粋桃色通信』 療刊準備第3号 (72.5.5)
平田泰祥	The Good Times Are Coming (ママ・キャス) — 何かいい事がやってくるさ —	『モンテウオリス』, カウホールドマン, 『ホ・スメン』, 人生が二度ありは	第2次『混血桃色通信』 第1号 『落日のあと— ボンゴツ・ヒーローに捧げるラガバラード * 時はとまげない, 君はホンコソタ』 (73.11.1)

▶ 「現代歌情」リバイバル ◀ (次頁上)

論者	歌 (歌手)	ふれられたことから — 備考	掲載誌
井上ひさし	個人授業 (ファンゴ-5)	花笠道中, 脱線口は, ドリフターズ, 美空ひばり, 東北出の歌手, 歌手の出身地の拡大, 恋の研究, ファンゴ-5のテーマ, 恋のダイヤル6700, 初めてのクラス会, 学園天国, また逢う日まで, 北に消え行く二人, 「現代歌情」	「言語生活」 (74.6)
		少年の町, 仙台-高, 道行者, 聖歌隊, 玉元晃, 恋のアメリカン・ストリート	「言語生活」 (74.8)

▶ 戦後歌謡年表 (つぎ、「現代歌情」にあるものを除く) ◀

年	流行歌	風俗 etc.
71	ナオミの夢 (ハドバとダビデ), めまい (四見), あの素晴らしい愛をもう一度 (クレイジー・ナツ), 憂愁 (黛), 愛情物語 (ヒビト), よこはまたそかれ (長崎から船にのって (五木ひろし)), 雨のバラード (湯原昌幸), ちよと淋いの (野村真樹), 熱い涙 (にしきのあきら), 望郷・おふくろさん (森), 愛の泉・虹と雪のバラード (ワエ), 砂漠のような東京 (あゆみ), 恋仁義 (圭子), 私という女 (なおみ), 天使になれない (和田), 琵琶湖周航の歌 (登紀子), 私が生れて育ったところ (野路由紀子), 男は黙って勝負する (都), 惚える恋人 (本郷直樹), 誰も知らない (ゆかり), 悪魔がにくい (平田孝夫とセルスターズ), 別れの朝 (ペドロ&カプリチオ), 青いリング (野口五郎), 雨のエアポート (菲菲), 終着駅 (千), 子連れ狼 (橋幸夫と若草児童合唱団), 結婚しよう (旅の宿 (吉田拓郎)), 水色の恋・ちいさな恋・ひとりじゃないの (虫をわたって (天地真理)), 北国行きで (朱里エイコ), ひまわりの小径 (フェルトゥ), この愛に生きて (クルセイダ), 許されない愛 (沢田研二), ふりむかないで (ハニー・アイツ), 赤色エレッツ (あかた森魚), 瀬戸の花嫁 (川柳), 雨 (三善英史), 女のみち (ひらからトイ), 学生街の喫茶店 (ガロ), 茶ばえ (麻丘めぐみ), 禁じられた恋の島・喝采 (なおみ), やくにもとまらぬい・狂れせたいの・じんじんさせて (リング), ひとつぶの涙 (ツモンズ), せんせい・同級生 (森昌子), 男の子女の子 (郷ひろみ), そして神戸 (クルセイダ), ひなげしの花 (アゲネ・ファン) 怨み節 (梶葉子), なみだ恋 (17代亜紀), 同棲時代 (大信田礼子), 天使も夢みる・天使の初恋 (梅田淳子), 円山花町母の町 (三善), 中学三年生 (昌子), 狙いうち (リング), 妖精の詩・草原の輝き (アグネス), 色づく町・傷つく世代 (沙織), 夢の中へ・心もよう (井上陽水), ツヨコへの伝言 (ペドロ), わかりません (アン・ルイス), 心の旅 (フェリーチア), 恋にゆれて (川柳), 君の誕生日・ロマンス (ガロ), 街の灯り (堺正章), 絹の靴下 (夏木マリ), 他人の関係 (金井克子), 涙の太陽 (安西まりあ), わたしの彼は左きき (麻丘), 君が美しく (野口), ファンキー・モンキー・ベイビー (キャロル), 白いギター・てんとう虫のサバ (フェルトゥ), ひとり, 子甘え子 (赤い風船 (浅田美代子)), 個人授業 (ファンゴ-5), 神田川 (南こうせつとかいゆ), 青い果実 (山口百恵)	飢饉世代, 1億2千万, 1-カー運動, ゴミ戦争, スマイル・バング, 競馬ゲーム, ネズミ講, 百円化粧品, カセツ文化, 成田少年行動隊, 円切り上げ, 未婚の母, 11月の濡れた砂 (石川セリ), ニセ医師, 横井さん, グム, 変身!, 木枯し, 紋次郎, キッチュ, 脱サラマン, 総括, あさき山荘, ハッポロリンピック, 日活ロマンポルノ権略, 沖縄本土復帰, のんびり行こうよ, ひと味ちがいます, ~でもいい, ~であれが, 恥ずかしながら, グラタラ物, 文庫本ゲーム, 振り仮名休日, 赤ちゃん, 同族, ゴルフ・ゲーム, ツチノコ, ハイセイコー, 起インフレ, 石油危機, 終末論, 日本沈没
72	73	

12 * この年表は、レコード発売の時点で主に記録してあるので、若干、ヒットとずれるところがある。また、70年後半～73年にかけて、選曲は、やや恣意的かついい加減になされている。それ以前は、「美術手帖」と「日本流行歌史」を検討して行なった。

1950-1970. ニッポン — by M.G. MAO

わが国の若者たちの間には、プレスリーからボブ・ディランに至る50~70年代に、アメリカで“起ったのと同じような大きな変化は、ついに起らなかった。プレスリーはウェスタン・カーニバルへ、ディランはフォーク・コンサートへと、晉抜きにされて移植されただけで、それすら定着しなかった。定着しないから芽も出ず、発展もしないのは当然のことであった。

3年前、かまやつ・ひろしの「どうにかなるさ」という、カントリー調歌謡曲があった。「正直に言って、僕はこの歌が嫌いだ」と、大和屋世が朝日ジャーナル・現代歌情に書いていたが、僕も嫌いだ。なぜ、かまやつ・ひろしなど取り上げるかという、彼は、ウェスタン・カーニバル→グループ・サウンズ→フォーク・コンサートへと、時代は変っても(実は変らなかったのだが)常に、若者たちの中に身を置きつつ、コマツヤリズムのすみっこで“自分の場所を巧みに獲得している、ほとんど唯一のツンガー”であり、ソングライターであるからだ。パッとスポットを浴びることのないのが、返って彼を息の長いタレントにしている。すなわち、彼は50~70年代へ続く時代の中で、何が変ったかではなく、何が変らなかったかを、身をもって示しているのだ。つまり、ボブ・ディランは「時代は変わる」と唄ったけれど(時代を変えよう—と唄ったビートルズと一味ちがう)、わが祖国では、時代なんぞはちっとも変っていないのだ。その生証人というか、見本みたいなのが、かまやつ・ひろしである。そこへ目をつけた大和屋世は、そんじょそこのDJや音楽家よりも、すぐれて時代の歌を見抜いているのだ。

昔、「日本語のフォークとロックのコンサート」なる、ウサンクサイ催しに出かけたことがある。当時、盛んに行なわれていたコンサートの集大成みたいなやつで、有名無名のミュージシャンが居並ぶ中で、かまやつ・ひろしは、観客から別格に扱われていたので、ちょっとおどろいた。彼はどこへ行っても、このように寛大に迎えられるらしく、決してヤツや石ころが飛ぶことはなかったようだ。しかし、例えば“中津川のフォーク・ジャン・ボリー”で「カエ！カエ！」とヤツられるべきは、安田南ではなく、かまやつの方ではなかったのか!?

先日、かまやつがDJ(ゲンミツに言えば日本にはF/DのDJはほとんどいないが)をやってるラツオ番組に、「ぼくはプレスリーが大好き」の著者・片岡義男がゲスト出演し、ロックン・ロール初期について語り、レコードをかたたりしてるのを聞いた。二人とも、ロックン・ロール以前には、カントリー & ウェスタンを聞いていて、プレスリーが登場すると、片岡はスムーズにロックン・ロールの中へ入って行ったが、かまやつの方は、それが出来なかった、というのが面白い。そして、かまやつがウェスタン・カーニバルをなつかしく語るのを、片岡は、あまり興味なさそうに聞いていた。「ウェスタン・カーニバルなんて行きましたか？」と、かまやつが聞く。「一回目だけ行ったけど……」それ以上は、片岡は語らなかった。要約すれば、かまやつは、単純なカントリーの

レベルに留まり続けながら、GSやフォークと渡り歩き、片岡の方は、C&W → ブルース → ロックン・ロールへと発展したわけだろう。

「単純であることと複雑であることの差をはっきりと認識しなければいけない。単純であることはすでに一種の犯罪なのだ。複雑であることも犯罪になりうるのだが、はらんでいる可能性は、単純さよりも複雑さの方がはるかに多いし、まきっている」
(ぼくはプレスリーが大好き)

このことがわからない、わが国の若者たちは、片岡のいう「心の爆発」「トータルな目ざめ」を、この20年来、現実のものとして体得できないでいる。単純さに留まる者、それを許容しつづける連中は犯罪的だが、「心の爆発」「トータルな目ざめ」が、LSDや麻薬によって必ず実現可能であるかのように吹聴した連中も犯罪的だ。それは、亜流ヒッピーを生んだだけで、たちまち風化した。

1950-70へ、スタイルだけは次々と変ったが、単純な、それゆえ犯罪的な歌は流れ続け、聞かれ続けている。いわゆるフォークやロックが、歌謡界やCMソングへとなだれ込んだのは目もあてられない。最近のCMソングには、唸るような叫ぶような、オソマツなロック風の歌が多くて、あれを聞くとムズが走る。念のため付け加えると、50~70年代にかけて、日本でもいろんな事があり、いろんな歌があった。60年といえば、西田佐知子、松尾和子であり、70年といえば、藤圭子であり、「網走番外地」である—というのには正解ではあるが、それらは結局、トータルな目ざめとは関係のない、部分的なプラスチックの解放をしか意味しない、と言い切ってしまう。ブルースやロックン・ロールが生まれるまでには、実に多くの体験と時間があった。戦後わずか30年足らず、まだ我々自身の歌は生まれていない。「大人たちは音オンチ」「子供たちは詩オンチ」(大和屋世)なのだ。ガロだのかや姫だの聞いて喜んでる少年少女が大人になっても、日本は、何も変わらないだろう。

変革の担い手たるは誰か!?

カラス 笑えよ

のしみち

採譜 YOTA.

1. あさめをさませは び十 ちち じ これ から いち にち とうしよ う
 2. ラーメ ライ スに は おい も ほい まり ラー た も こ いうしよ う
 3. よる ぬき と き は おい も ほい まり ラー た も こ いうしよ う

カラス わらうな わらうな カラス おまえが わらえば おい いら は つら い
 かが かが が くれ くれ
 おまき

まだ ひは たか いしり じかんも ある ない のは あか ぬと こいだけさ
 ♀ ぶる に ほる まか いく じす あ やせ たい それ んの もの た めに きん けあゆら
 ♀ Coda. きつと くる まき

カラス わらえよ カラス わらえよ カラス わらえよ カラス わらえよ

「習うこと」が嫌いな女

by DOC

— プカプカ ① —

ぼくは、「習う」ということが、とつても苦手だし、嫌いだ。学生のブンザイでなにを!!と言われるかもしれないが、「習う」ということは「学ぶ」ということとも、「教えられる」ということとも、すこし違ったニュアンスだということを納得していただきたい。

それでも、とにかく前向きではないことだけは確かで、いまだに大学の2年生だという動かぬ証拠もあるし、いまだに「映画」ぐらいしかこれといったものがないということも、その一つかもしれない。まあ、いろいろと、人の手ほどきで、試しにやってみるのだが、大抵、そういうものには夢中になれないのであって、古くは、麻雀をこん切ていぬいに習ったのだが、今では、やり方ぐらいしか頭に残ってなくて、ヤクも点数もすっかり忘れてしまっているし、最近では、ゴルフ(!!)なんぞを機会あって、習ったのだが、これもどうていものにゃなりゃせんのであります。

それにひきかえ、「習うこと」が上手で、趣味みたいな人もいろいろいて、なんでもかんでも習って、物にする人がいるのだけれど、別に、そういう人に対してツツなとさらさらするわけでもない。まあ、「生まれつき」ということばで軽くかわす(!)のであるが……。

で、なにがいいたいのかというと、例えば女をこういうふうにわけみると——つまり、「習うこと」が好きな女と、「習うこと」が嫌いな女とにである——、自分としては、どちらがいいだろうかというのである。

もちろん、ぼくは、「習うこと」が嫌いな女のほうがいいのである。あたりまえ! なにも、家庭教師をやっているわけじゃないんだから、「習うこと」が好きな女に、何をやって応えてやればいいのか?! 「習うこと」が好きな女なんて、まっぴらなのです。(実に、体験的にそういうのです。)

ところがしかし、これは、あくまでも生理的な問題、つまり頭の中での問題でありまして、実際にこういう女の人——「習うこと」が嫌いな女——を相手にしたら、これほど難しいことはないのです。それは、もう、身も心も疲れてしまうのであります。(これも、実に、体験的に……)

「習うこと」が好きな女を相手にしているほうがよっぽど楽なのに……、それでも、やっぱり、そんな女はまっぴら……と、こんな矛盾にモンモンとするのは、ぼくばかりではありません。

「プカプカ」という唄には、ひょっとして、そんな男——「習うこと」が嫌いな女を相手にした男の、後悔というか、自分のばかさにイライラしながらも、やっぱりその娘が離せないという、「複雑なしあわせ」が託されているんじゃないかとぼくには思える。

△俺のあん娘は たばこが好きで いつもプカプカ
体に悪いからやめなっているも いつもプカプカ
遠い空からふってくるという 「しあわせ」って奴が
あたいにわかるまで

あた い たばこ やめ ないわ
い つ も プカ プカ プカ

俺のあん娘は、男が好きで い つ も フン フン フン
おいらのことなんかほたらかして い つ も フン フン フン
あんたがあたいの寝た男たちと 夜があけるまで
お酒 飲めるまで
あた い 男 やめ ないわ
い つ も フン フン フン

唄は、ディランIIがオリジナル。この唄、しかし、「習うこと」が嫌いな人間によって、広く愛唱されておるようです。桃井かおりもその一人。彼女は、この唄が、とてもの気に入りです。西岡恭蔵、ディランIIと、彼女が一諸に並んだ写真が「新譜ツァーナル」(だったと思う。)の表紙になっておりました。また、彼女の出演したTV『追跡』の「不道德な天使」では、彼女がギターをかかえてこの唄をうたうシーンが、お話しとは関係なしに挿入されていたし、『太陽にほえろ』の「新宿に朝は来るけれど」(ぼくの見た『太陽にほえろ!』では、いまのところこれが最高—監督竹林進)では、事件の鍵を握る一枚のレコードが「プカプカ」(西岡恭蔵が出演、劇中うたっていた)。そして、『青春の蹉跎』では、喫茶店のツーンで、いつもマキなんか歌っている赤座美代子が、桃井かおりとツョーケンがはいってくるなり、「プカプカ」をうたい出す。

かおりの行くところ、いたるところ「プカプカ」ありである。彼女の演ずる女はもちろんのこと、彼女自身もまた(これは想像するしかないけれど)、ぼくにいわせれば、「習うこと」が嫌いな女にちがいない。バレエを「習うこと」を拒否して、役者に走った彼女の演技が、決して「習った」ものじゃないことは確か!

「不道德な天使」で、自分にいろいろ「教えてくれる」男たちに、自分の肉体で、そのかみを返えそうとするのは、「習うこと」を拒否する彼女の一つの手だったのかもしれない。そんな彼女が、「新宿に朝は来るけれど」で、一つだけ教そわろうとする。

「なぜ? なぜ? 新宿って、夜はあんなにこわいのにな、朝はどうしてこんなに優しいの? 教えて!」って。「習うこと」が嫌いな女を相手にすると、どうして難かしいかという、突然こんなわけのわからないことを聞くから。そして、だからこそ、男にとては、うれしくなんのとちゃうわるか?

(74.8.14)



習うより嫌いな
(旗本退屈男)



(笛吹き)

ひこうき雲にのって

— ユーミン大特集 —

by YAS

ユーミン大特集と言っても、僕は、ユーミンについて全く何も知らない。でも、ユーミンの唄・歌・詩は、大好きなのだ。そんなわけで、レコードを買った。そのLPの題名は「ひこうき雲」。僕はユーミンの曲に乗って、そして、飛行機雲に乗って、ユーミンの世界に行き、みようと思うのだ。



荒井由実 ● ひこうき雲

ユーミンの歌は、全て空へのあこがれだ。空には雲がある。雨がある。もちろんやさしい雨だ。空は海と一体になっている。そして、空には天使もいる。天使のおりて来る時は、ユーミンにとって、曇った空の夜明け。もやのような、霧のかかった朝。そんな時、屋根に登って、空を見上げてると、天使がおりて来るのだ。その天使は、『天国への階段』みたいに「地上はいいな、テクニカラーだ」なんて、言ったかもしれない。ユーミンは、そこで「テクニカラーでも、地上はたいくつよ。私を天使の国へつれてって」なんて言う。天使は、美人に弱いのです。「モノクロの天国だけど、いつでも大かまげいさ」。2人は、紙ヒコーキに乗って天使の国へ（ン!? 若干、乗って来たな!）。そこは、眼にうつるものすべてが素晴らしさに輝いていた。「まるで天国みたいだね」「そうさ! 天国さ!」。ユーミンは、それから、やさしさに包まれて、天国の生活をすごした。でも、やっぱり、地上へ帰りたくなってしまふ。そこで、ユーミン、天使に別れを告げる。「どうやって地上へおりる? 階段は1946年に、こわしちゃったぜ」「だいじょぶよ。私は、ここでの生活でスーパーレディになったわ。スーパーマンもメじゃないわよ。地上へは熱い風に乗って、スーパーパラシューターで一直線」と言、て飛びおりた。でも、その時やさしい雨音が聞こえて来た。「なんだ夢か」。ユーミンはぬめい眼で、窓を開ける。外は雨。曇り空。「今日は、曇り空ね。外に出ないで、雨の妖精たちが、雨の街で遊ぶのをながめていよう」。そして彼女は、ぼんやり空をみる。

まっと言える

Bb7 Bb7 A7 Gb7 D7 Eb7 Gb7 Bb7
 A7 Bb7 A7 Bb7 A7 Bb7 A7
 Bb7 Bb7 E7 E7 A7 D7 C7
 G7 C7 F#7 F#7 F#7 Bb7 D7
 F#7 E7 F#7 F#7 F#7 Bb7 D7

「こんな、むつかしくてシンパルな、いい歌! はかり」

歌 荒井由実
 1954年1月19日生まれ(山手区)性格的にはみずが度
 出身地・東京都八王子市 学歴・立教女学院卒、多摩美術大学絵画科
 日本画専攻(在学中) 趣味・音楽・日本画

ひこうき雲 LP 荒井由実
 ETP-9093
 ひこうき雲/曇り空/恋のスーパーパラシューター/空と
 海の輝きに向けて/まっと言える/ベルベット・イース
 ター/紙ヒコーキ/雨の街を/高きはいらない/そのま

レコードから無断でテープその録音することは法律で禁じられておりま
 制作ニアルファ&アソシエイツ株式会社
 発売元ニ東芝EMI株式会社 MADE IN JAPAN

僕は、ユーミンの唄を聞きつ、ふと思った。村野守美さんのボボは、空を自由に飛ぶ鳥を見て、ノラおじさんに「どうして、バカメラ(鳥)は、空を飛べるのかな」とたずね、ノラおじさんをこまらせる。ユーミンも、きっと小さなころ、ママのブーツを見ながら、ママに「どうして空から雨がふってくるの」とたずねて、ママを困らせたのじゃないかな——と。

そんな幼い世界が、感じられるのだ。このLPのジャケットに、ユーミンの小さなころの写真があって、その写真を見てると、ふと、そんなことを思ってしまう。ユーミンの甘い、幼い声が、唄と歌と詩(うた)になって、不思議な世界を創造してしまう。曇り空から、ふゆーと、天使が、ほんとに、おいて来るような。瞳を閉じると、どこからともなく海の音が聞こえてくるような。ユーミンの幼さは自分が、どんどん成長してしまうことに反撥する幼さだ。だから、きっとユーミン自身は、さめた女の子なのじゃないかな。でも、だからこそ、こんなにロマンチックであり、不思議なやさしさを持っているのだと思うのだ。

(74.4.23)

- 好きな作家
— タゴール
- 好きな監督
— ポランスキー
- 好きな自分の歌
— 私のフランソワーズ
- 好きな言葉
— 愛してる
- 嫌いな言葉
— 根性

〔文責〕

ユーミンへの質問どしどし
(8/16バクズ部 TBS)

10月には、ユーミンのセカンドアルバムが出る。
みんな、ユーミン党になれよ!

キャラメル・ママ

by M.G.MAO

ユーミンの「ひこうき雲」のアレンジは、ユーミン+キャラメル・ママで、バックはキャラメル・ママだネ。アグネス「ポケットいっぱいの秘密」のバックもキャラメル・ママ(アレンジは、東海林修+キャラメル・ママ)で、今年の歌謡曲ベスト1! バックの演奏は、歌謡曲史上、始めて以来のフクザツなアレンジで、もう歌謡曲に入らないネー。特にピアノがいい! 「スタンク」より上だ!? 7.16の「ミュージック・フェア」(フジ)にアグネス+キャラメル・ママ出演。キャラメル・ママはみんな、ヘッド・ホンつけて、楽譜みながら演奏するんだから、「ポケットいっぱいの秘密」のアレンジは、ナマでやるにはよっぽど難しいのだから、あの軽快なピアノ・ソロの部分はカットされて、テンポも落としてあったから、レコードの録音の時はもっとタイハンだったよう。それにしても、TVの音楽番組で、ドラマーが楽譜みながら演奏するなんて初めてだ。キャラメル・ママは亀淵友香や井上陽水とも組んでいるネ。陽水のLPのアレンジは、星勝がやってる。ツツア(南沙緒)の「夏の樹情」のバックもキャラメル・ママだ!
「ポケットいっぱいの秘密」の作詞・松本隆は、元「はっぴいえんど」のメンバー。「はっぴいえんど」は、岡林信康のバックで名を上げたバンド。ボブ・ディラン+ザ・バンドの日本版みたいなグループ。「ひこうき雲」のスタッフ・細野晴臣(ベース)も「はっぴいえんど」の残党なのだ。

いつのまにか少女は

by GYA

決して美しくも可愛くもない。むしろ憎々しいといった方がよいくらいの栗田ひろみだが、彼女を凝視する少年のまなざしは、限りなくやさしかった。

少女がくるりとひと皮むける瞬間。女の子でも、女でもないその一瞬を、ぼくらはどんなまなざしでみたらいいのか。こんなふうにとまどってるうちに、たちまちにしてその貴重な瞬間は過ぎてしまう。ぼくらはただ、過ぎ去ったものへの想いを、そのまなざしに込めることができるだけだ。

いつのまにか 青い空が のぞいてる
思いつめた 黒い雲は 逃げてゆく
君はどこで生まれたの 育てきたの
君は静かに 音もたてずに
おとなになった

沢井正延。『放課後』の写真少年。少女、栗田ひろみの〈悪意〉だけが生きのびてゆくこの映画のなかで、彼女にもものみごとと弄ばれてしまった。

『放課後』は、道具立てそのものは東宝青春映画のモチーフをそのまま踏襲しながら、それを井上陽水の歌でつなぐことにより、ぼくらに深読みを強いる。高校生、片想い、隣りの若夫婦、優等生と不良少女、などの裏に〈青春の悪意〉が浮かんでくる。特権的な若さが それゆえに傷つけられるものの大きさが、それが美しく語られれば語られるほど、ぼくらに見えてくる仕組みになっている。

白い膚が 光に触れ まぶしそう
髪の色は 青い空に 浮きたって
燃える夏の太陽は そこまできてる
君は季節が 変わるみたいに
おとなになった

〈青春の悪意〉とは栗田ひろみの無垢な奔放さだけを指すのではない、沢井正延の純粋な恋慕も、またひとつの〈悪意〉である。彼の場合、傷ついたのが自分自身だったというだけだ。誤解しないで欲しいのは、ぼくは〈悪意〉という言葉も、決して否定的な意味で使っているのではないということだ。ただ、人間の存在を根底的に揺さぶりうるものがあるとすれば、それは決して〈善意〉などというなま温かいものではないだろうと思うだけだ。

例えばそれは、真崎・守の劇画「共犯幻想」の主人公の少年少女の反逆が、その動機と行為が純粋で奔放で個的でひとりよがりであればあるほど、それに関わる者たちをもまた、ひきずり込まずにおかない、といった風なことなのだ。

「いつのまにか少女は」の視点は沢井正延の視点である。同い年か、ほんの少し年下の女の子への想いと、距離感が、最初の三行とそれを受ける二行との距離によってみごとに表現されている。

（静かに 音も立てずに）と自分の無関係さを嘆き（季節が変わるみたいにして）
彼女自身の無頓着さをなじる。そして

いつのまにか 「愛」を使う事を知り
知らず知らず 「恋」と遊ぶ人になる
だけど 春の短かさを 誰も知らない
君の笑顔は 悲しいくらい
おとなになった

〈笑顔〉が〈悲しい〉とまで言わなければならぬほど、なぜ彼は自分自身を傷めつけなければならぬのだろうか。

栗田ひろみが、爽やかに笑い、汗を流してテニスに興じている姿にこの歌がダブると、ぼくにはそれがわかる気がするのだ。その場面が、雨中の地井武男とのキスシーンから一転して現れるだけに。

どうして笑っていられるんだ！

どうしようもなくそう感じてしまうことが、彼もまた〈青春の悪意〉の真只中に生きていることの証しなのだろう。そしてぼくは、最後の二行を、いつまでも憎しみを込めてリフレインしていたいと思う。

(74.7.30)

いつのまにか少女は — 詞曲. 唄. 井上陽水

Em B7 Cmaj7 Am7 B7 Em
いつのまにか あおいそらが のぞいてる おもいつめた

B7 Cmaj7 Am7 B7 Am6 Am7 Em
くろいくもは にげてゆく きみは どこでうまれたの

D Em C D G Em C
そだって きたの きみはしずかに おもたてずに おとな

D G D Em G D Em
にな、 た

打ちあけられない

by GYA



言わずと知れた友紀ちゃんの、言わずと知れたTV『ニセモノ』主題歌。但しこの番組、あまり良い出来ではないし、高木麻早の作曲でも気に入らない。 (7)

岡崎友紀

昭和28年(1953)7月31日 東京生。「ミュージカルが好き。見ててゆかいな方がいいです。—これから見たいなど思うのは、何としても『夏の王子さま』

どんな時でも マイペースで
歩いて来た 私だから
お願い じゃまをしないで
私は私の 人生があるから
※ 秘密はよくないわ 打ちあけなければ
本当のことを WO～ WO～
だけど 今はだめなの
もう少しの がまんなの

作詞も言わずと知れた高木飛鳥こと友紀ちゃん自身。彼女にしては珍しく、鼻っ柱の強い曲だ。

YOTA氏曰く「こんなにギャーギャー騒がしい番組は珍しい」とか。そうなのだ。喜劇こそ彼女の本領、悲劇のヒロインなんてのはやっぱり似合わない。〈顔〉で売るのでなく三枚目でありつづけること、これはやはり一つの才能だと思うのだ。富士真奈美や石研ナオモもかなりの美女だが、彼女らはやはり、三枚目用の〈顔〉を持っているように思う。

そうでなく、美女でありながら美女でない、周囲も自身も彼女を三枚目として扱い、ただ視聴者のみが彼女こそヒロインであると信じているという状況設定は、佐々木守の手になるものであろうが非常にユニークであった。だからこそ、彼女に加えられる迫害の質と、視聴者であるぼくらの反応の質にズレが生じる。喜劇としての物語の展開が妥当であればあるほど、ぼくらはそれを不当なものと感じ、面白さと歯がゆさの板ばさみになっている自分を感じ、ついにはブラウン管にズブズブに思い入れている自分を発見して驚いてしまう。岡崎友紀ー佐々木守のドラマに出会うとき、ぼくらはブラウン管の論理に自らの論理を対抗させる 論理的緊張を強いられるのだ。

岡崎友紀を〈女性版バスター・キートン〉だと言ったのは、同志宇田川幸洋氏だった。それなら〈キートンの法則〉に対応する〈友紀ちゃんの論理〉だって あっておかしくない。

さきに論理的緊張と書いたが一寸違っているようだ。むしろブラウン管の論理にぼくらが情緒で対抗するからズッコけてくるのではないのか。そんなファンの立場を、ドラマに取り込んだのが『おくさまは18才』の海沼先生(寺尾聡)『ラブラブライブ!』のボクちゃん(内田喜郎)のキャラクターである。

孤立無援で迫害にあえぐ彼女を断固支持する彼らの姿は美しくすらあるが、それがかえって彼女をさらなる苦境に追い込んでしまうのだから、ファンとしては実に苦いドラマなのだ。これは。

どうも話が歌からどんどん離れていってしまうが、もとより「打ちあけられない」をとりあげたのは、最新曲だからという理由しかないのだから、これでいいのだ!

どんな時でも マイペースで
歩いて来た 私だから
お願い どこかへ行って
泣きごとはかりを 言うてはもらえない
※ Refrain

歌手としての岡崎友紀は、音聲とはまるで無縁で、先に述べたように彼女の音聲はだからこそ成立しているのだが、これはもう凡そ特徴のないことおびただしい。デビュー以来四年余、どうして人気を維持していられるのかは永遠のナゾだろう。個人的な感情を言えば、当りさわりのない歌ばかりを、二十一にもなって、馬鹿でもないのに（相当に利口だと思ふのだ）照れもせず歌っていられるということに、一も二もなく感動してしまふ。そしてこのまま、衝撃の何とかとか、電撃何とかでなく、徐々に徐々に変わりつつ、いつのまにか大人になり、おばあさんになってくれるのかも知れない。

(74.7.31 友紀21才の誕生日に)

青春の暗いページ

by DOC

— 「青春のページ」 —

ねむの木影で 読み終えた
太宰治の 裏表紙
紙とエンピツ 握りしめ
何か書いては すぐ消した
青春時代の 一頁



これは、誰の唄でしょう？ 男か女かどちらかといえば、これは女の唄にちがいない。じゃ、だれか？ 山口百恵でもなく、榊田淳子でもなく、森昌子でもなく、これは、意外なことに高沢順子タンの唄なのです。

なぜ、意外か？ といえは、この唄のヒロインは、明らかに順子タンではないと思うからなのである。多分、順子タンは、「ねむの木影」などで本を（もちろん太宰治なんて!!）読みはしなかつただろうし、「紙とエンピツ」など握ったことはあったにしても、決して「握りしめ」たことはなかつただろうと、ポーカーで勝手に決めてかかっているのです。順子とはそういう女なのだ。ましてや、この唄の背後にある「学生時代へのノスタルジー」など、高校一年で「学校」とは、縁を切った彼女とは、まったく無関係だろうし（否、それだからこそあるんだろうか?!）、そういう歌詩を彼女に唄わせたディレクターのセンスは、同じ時に縁を切った「家族」——その構成員の一人として、なんとしてでも彼女をほおりこめようとするTV関係者（『お元気ですか』『霧の影』『かあさんの明日』）とまったく同じものである。順子は いつも一人なのだ。

「あたしを笑わせたりして（写真を）撮らないでね。かったるい人なのよ、あたしは」
とうそぶく彼女は、また、一人である自分に強烈にナルっている。だから、『新・同棲時代』『それぞれの秋』以降の、テレビ、映画の中で、まったくのっていない。のれない。もちろん、この唄にしたって、でも、出演する、歌う。「プライベートと仕事が一緒になれば、もっと生きがいがあるんだろうけど……ダメだなあ」と彼女はいう。

「歌うこと」「演技すること」は順子にとって「うそをつくこと」なのだ。だがしかし、「うそをつくこと」は、大抵の場合、第三者の耳、目があることによって生ずるものじゃないだろうか？「毎日、毎日つまらない。あたしには目的がない」という順子が死ななくて、今、生存しているのは、その「第三者」と自分との間にかりうじて存在するツングロのおかげかもしれない。

夜ふけ仕事を終えて帰る真暗な部屋。— LDKのアパートに一人暮らし。テレビの音消してレコードかけ、長イスにねそべってハイライトを吸う。レコードが鳴り終って、カラ回りしても気づかない。——

川口、マキの唄が好きだという順子は、そんな夜、こんなふうにすぎて行くのなら……と、ベッドの上で泣くのでしょうか？

(終)

引用は 6.22 東京新聞夕刊の順子へのインタビューから—資料提供 Tetsu

(74. 8. 14)

Key E, Capo 3

おれのおんこは たばこ がすきで いつもプカプカ プカ

からだにわるいから やめなていても いつもプカプカ プカ とお

い そらから むーてるっていう しあわ

-せ- つや つ が あたいにわかるまで

あたいたばこ やめないわー プカプカプカ プカ

作詞・作曲/象狂象 ©1971 by Art Music Pub.

プカプカ II

2-倍のおんこはスウインクが好きで
いつも ドウビドウビドウ
下等くせなうたはやめなつていつても
いつも ドウビドウビドウ
あんたがあたいのとうてもいいうたを
涙ながしてわかつてくれるまで
あたいうたはやめないわ
ドウビドウビドウビドウビドウ

キャラメル・ママ → ティン・パン・アレイ

「キャラメル・ママ」という名前は、なくなりました。これまでのメンバー4人に鈴木寛子と矢野誠を加え、「ティン・パン・アレイ」と改名したのだ。プロジェクト・チームとか。独立の演奏会は行なわない。

YOTA

“オイキ”と言わせるつもりじゃ
なかったが……

～ 実感的 西田佐知子論 ～

by TETSU the phoenix

どうやら、彼女は本気で“オイキ”と言っているらしい。もちろん、某カレーのテレビCFでの彼女のセリフのこと。あかし、彼女は決して“オイキ”とは言わない、言えないおんなだった。そんな彼女は、今ではカレー女房。お相手は、関口某。かつて、赤坂、大本木そぞろ歩いて、恋の相手は屋の数、名うてのプルー・ガールのはずだったのに、大スタープレーヤーでもなければ、大ハンサムでもないし、大資産家でもなさそうな、ボンボン然とした関口宏だもんね。

もっとも、フツテレビの演出(やらせ)に乗って、ホイホイ諸になっちまって、もう離婚ときかいらんと思いきや、どっこい、智宏ちゃんも生まれるし、残念ながら円満らしい。こうなってしまうとは、私の負けよ、らしい。

今さら“あなたは、酒場の隅で溶けそうな氷のような、さみしいおんなの歌を唄い続けて欲しかった”とうらみごとを言ったところで、所詮、遠吠えに過ぎないだろう。

私生活の西田佐知子(本名)の行く末なんて、どうでもいい、とあえて言っておこう。テキストにおやんなさいな、と。思えば、小学校6年頃から、他のヤング歌手には、目もくれず、惚れていたのは、歌手西田佐知子だったはずだから。

今さら、西田佐知子の魅力といっても、死んだおんなの顔を数えるみたいで、リリしくないけれど、やっぱりあのハスキーボイスだろうな。佐藤友美、大原麗子、工藤明子とボウ好みの女優列伝の原点は、西田佐知子のあの声を基調としている。榎田淳子風のまあい声や、山本リンダ風のバカ甘声は極端にいえばおんなの声ではないのだ。無論、水前寺清子風ウナリ声なんぞ大論外。(もっとも、佐知子お嬢さまも、西田佐知子で売れる前は、浪花ナントカとかいう芸名で和服着て、大演歌うなっていた時期もあったというから真実はコワイね)

そんなハスキーボイスは、リリイみたいにお酒でツブれたんだろうなと思いたい。そして唄うのはいつも失恋のウタ。ああ、切ないわ、死んじゃおうかな、と、グラスの氷と遊んでると、そんな気分になってるようなおんながいつも彼女のうたの中には、いた。そう、やたら死ぬ、死ぬ、と言うのだ。これが。

♪ アカツアの雨にうたれて、このまま死んでしまいたい、——

♪ あの人に逢ったら、きっと聞いてほしいの、私が死んでもいいから。——

♪ 神戸で死ぬたら、私の恋は遠い異国で愛を指さす星に
星になるでしょう。——

と、パッと思い出しただけでもこの調子。とにかく西田佐知子は唄の中で何回

死んだことだろう。60年碧頭「アカシアの雨がやむとき」で始まって、60年代の黒い雨の中「西田佐知子」はぐっしょり濡れて疲れた足どりで「東京ブルース」「涙のかわくまで」「女の意地」と歩いて来た。そして70年代も中盤、かつて何度も哀しく死んでいった「西田佐知子」を代償に西田佐知子は、順調に生きている。もう暗い雨の舗道になんか飛び出しはしないだろう。だからといって、裏切られたなんてちっとも思っちゃいない。『ラストラン』のスコットばりに“わかってたよ、ありがとう”てな言葉だってこちにはある。結婚後に出した唄「私を許して」「ひとりが似合う女」だって依然聞いている。(題名が若干皮肉だねな) もっとも、こちらとしても、最近若干(かなり?)日和ってるので、とても批判を加えるなんぞハナッからおこがましいのかも。まず自分の足もとを撃ってからにしないと……

だから、今ントコ、机の上に飾ってある、この人の写真「はずす気になれず、いい女_{ひと}だった、とつぶやくだけさ。

[74.9.10]

『実感的〜』は、YOTAがつけたもの。}

七郷から七国へ

by M. G. MAD

日本の流行歌が、オキナワ→台湾→ホンコン→へと版図を拡大するに至る事情などおぼろげに思いますが、長くなりそうなので、勝手な思いつきを並べるだけにします。

井上ひさしが、かつては歌手といえば、みな東北出身だったように思うと書いていた。なぜ、今は、みな南方系になったのか。——まず、直接の戦災をうけなから東北から、「リンゴの唄」が流れてきた。ついで、「東京の屋根の下」で、焼跡からの復興＝都市化が進み、「昭和26年の真木不二夫の『東京へ行こうよ』」に煽られて、僕なんかも東京へ来たわけですよ。(寺山修司)、そして、故郷の山河を唄った歌と都市での恋人や小市民生活を唄った歌が多く作られ(別々の一本杉、哀愁列車、若いお巡りさん、有楽町で会いましょう etc)。安保があり、安定して、東京オリンピックで、東京は国際都市化(ウナ、セゾー、トキオ etc)、次は列島全体の都市化(ご当地ソング)、東京再興(新宿育ち、新宿XCity)それが「砂漠のような東京で」となると、もはや、東京だよおっかさん! などといわれて、どこで生きても同じこと、藤圭子 etc. が望郷でなく、七郷の歌を唄う。恐らく、最後の(東北出身)歌手が、藤圭子である。かつて、列島の復興と都市化は終わった。さ、今度はオキナワだ、北方領土だ、列島改造、版図拡大、アツア再進出だ——とメチャクチャ短絡させてみれば、こうして、ツツアやフンガー5やアグネスが登場する。

ツツアと藤圭子は、何か何まで対照的だ。〽私はいま生きている(17才) 〽私の人生暗かった(夢は夜ひぐ)と、現在形対過去形。藤圭子が七郷を唄えば、ツツアは〽ふるさと持たないあの人の心の港になりたいのーと唄う。

が、藤圭子とて、多分ツツアなれ、作詞ものにちがいはない、藤圭子の思想とは、ハイマート・ロスの思想である」と松田政男がいったのは、思い入れがすぎるというものだろう。

そもそも、ぼくは(沖縄県)などインキキだと思っているから、それは、在りもしない南の島を唄ったって同じこと。悲しみ苦しみひとつかたもなくとも、ひとつの純情があればみんな許せる。アグネスにだって、植民地ホンコンの悲しみなど、残っているわけない。フンガー5は、(沖縄県)出身でなく、オキナワから法的手続をへて(移民)してきたのだ。みんなウソで固めてメチャクチャ。

ヒマなら「崖め! フンガー5」なんてTV番組をみてみるといい。日本語・英語・中国語・仏語 etc. メチャクチャ入り混じり、子供たちは、誰彼かまわず、ケシメに声援をおくっている。とりあえず、それでもいいのかも思はない。もはや望郷の歌も、七郷の歌もどこにもないのである。七郷から七国へ!

遠ざかってゆく「歌謡」映画

— 斎藤耕一の歌謡映画についての覚え書 —

佐々木 毅

斎藤耕一についてズバリ一言でいえば、美空ひばりの映画が作れない監督である。もっとも、ひばり映画というのをわたしはまるで見ていないし、それがどんな傑作にみちているのかも知らない。とにかくスクリーンでひばりにお目にかかったのは『祇園祭』のみであって、この映画のひばりは祭の群衆の一人として登場するだけで、それゆえ、もっと真面目に出演しろと観客の不評を置いたくらいであった。しかし、私見では、不評の責任は脚本家にある。ひばりの出演しやすいように「俗悪」でキンキラキンの脚本・体裁にすればよかったのである。伊藤大輔でなくても、せめて沢島忠がメガフォンをとっていけば、である。名著「美空ひばり」の著者、竹中労が『祇園祭』についてそのトップ屋〔註1〕性をいかに発揮して活躍したのも、かれが、美空ひばりにホレていたからではないかと思う。

「スポニチ」5月29日号に、小沢昭一が、《ファン白書 美空ひばり》という一文をのせている。かれ曰く、「美空ひばりのどこにマイっているか……



〔この写真は、何という作品か？ 解答が、この誌上にはないクイズだ。〕

一 容姿 — 美しいと思う。これに異論のある人は、西歐的ハ頭身を美しいと思いこんでいるバカ。ハ頭身を美しいと誰れが勝手にきめたんだ。日本美人は古来、胴長短脚。小野小町は四頭身だぜ。

二 センス — 抜群。これに異論のある人は、フランス・マドモアゼル風センスをツクだとも言うのかい。本邦芸能人の伝統的正統派センスは一貫して異風 — キンキラキン。出雲の阿国を見ろっていうんだい！

三 男を見る目 — わかってルウ。遊び人風の二ガミばしいいい男ばかり。まちが、でもクソインテリ小僧になど目もくれない。

四 歌唱 — 言うも更なり日本 — (しかし「柔」など人生教訓的なものを私は好まず)

五 ヤクザ性 — 先頃 ひばりさんは社会的差別を受けた。弟の行状がどうであれ、姉の歌と何の関係もない。第一あれは警察のスタンブレイ。しかしひらがえて考えるのに、ひばりさんの歌のすばらしさは、弟が捕まるくらいだからこそであ

る。例えば、学習院出身で、大蔵次官の娘だったら、なんであんなに人の心を打つ歌がうたえるものか！」

さて、斎藤耕一にもどれば、かれはたしかにグループ・サウンズの映画をつくり、橋幸夫、西郷輝彦、森進一、辺見マリ、和田アキ子の映画をつくっているが、それはむしろ日本の風土あるいは風景に密着するような試みとしてではなく、ある種の泥くささと対比して歌手および歌のカッコヨサ(小沢の西欧流センス)を強調せんがためではなかったか。もちろん、だからといってそれがわるいわけではない。かれが日本の風土、風景と生活への関心を力説すればするほど、かれの意図とはウラハラに、かれの西欧的センスが生きてきてしまうというパラドクスこそ、斎藤耕一論のケルンでなければならぬと思うだけである。それには美空ひばりと(たとえば)森進一の歌に内在している風景をさぐりだし、斎藤耕一の“歌謡”映画の風景との対比においてその相違点を明確化していく努力が必要であろう。

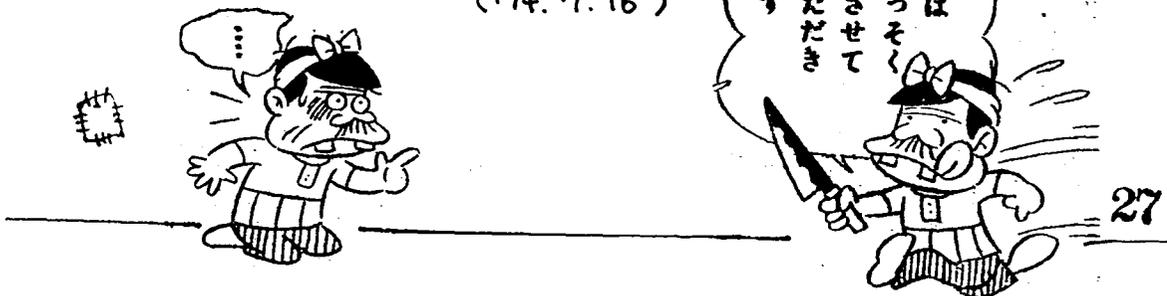
ただひとつ確実に言えることは、『囁きのツヨ』以来、斎藤耕一の描いてきた男は、美空ひばりのホれるような男ではなかったということである。かれらは、遊び好きで、軽薄で、調子がよくて、往生際がとても悪くて、冷酷で(他人を売るようなことさえして)、生活能力がなくて、まあイヤラツイ男なのだけれど、いくら美男でも、決して「ニガミばした」イ男ではないのである。何を考え、何を夢みているのかが恋人にさえわからぬ男は決して「ニガミ」を走らせることができないのかもしれない。

そして、前斎藤夫人、天路圭子の次のことばは、斎藤映画の秘密の一端をよく伺わせるにたるものではあるまいか。「斎藤はよく、今度結婚するときにはホッパタの赤い、素朴な、面倒見のいい女性がいいなあ」といった、だから、まさか相手が女優さんだとは」

素朴な娘さんがどんなに好きでも、むこうが好きになってくれなければ仕方がない。仕方なければ、仕方ないなりにやっていかなければならない。それが男というものであろう。

〔註1〕『女の警察・乱れ蝶』という映画のなかで、小林旭が内田良平に向かって「ルポ・ライターだってね？」ときくと、良平 対えて「トップ屋といってもらいたいねえ」。このやりとりに、日活アクション映画のB級への居直りの毒勢がみられて、わたしはひどく気に入ってしまっただが、つまり「ルポ・ライター」と書かず、「トップ屋」と書くわけである。

(74.7.16)



エロスの誘惑

ホンモノにせもの、どうでも良くて、妖しくゆらめく女のイノチ、婚約指輪は
何処へ行く — という**市民**サスペンス。

ヒッチコック御大が日本におればこんな市民感情とくに描破。お次は
奈落か天国か、一瞬先をコロコロと想像力が駆け巡る、果てなきエ
ロスの道行きに、消えては浮かぶ**性蒸気** — 。

日常事象は保守反動、バラのつぼみの「市民ケーン」。誰にもとけぬ謎
ときの、開かぬつぼみはユメのユメ。

されど、トキにはマサ夢。〈天使のメロディ〉聴いている、ヒロインタネは
ずば公天使。刹那のひらめき — あとは夜の闇だ — ボードレール。
映画とはつまり刹那のイノチ — 伊藤大輔。つまりは女の逆巻くイノチ
の謂ダ。

瞬時に翔けてつかめない、ムダムダの鬼ごっこ。**ダテ**の原理を
知ってはいても、生きる限り疾走するのは、ヒトがヒトにかけたる血の橋ダ
— ご存知?

女の女に成る意気、もとよりすべて。生まれは^はなしの**自性** — はむな
い。女も人間なんて、ヒューマニズム、おれ知らん!

そして
中川
梨絵
だった

73.12.25.

北風哲

OL日記・牝猫の情事

しのぶちゃん、女に成るため必死。女には女の意地があるのだヨ。
結婚生活が続けられない!? 健康を失った女に、ふつ々の女の
抱くメルヘンがたったひとつの現実 — **ふつ** 現実と信奉されているも
のは空中落下、マンションの鍵みたいに覚束ない。

しかし、よかったヨカッタ。牧村利光くん風に言っても、**もうすごいのだ**。
キイが風船の舞う如く下界へ墜ちて行く、居場所をみつけて雑草の中ポツ
ネンとある風情、俯臥で捕入するなんざ、無類。

その上、階上高くにある部屋では毛糸のタマが観客席へこぼり込む菜
配、ホント胸の中におれがあふれる幻覚にふるえ、縛られている中川
梨絵はおれが縛っているのか おれが軟禁しているのか、判別できない
有様。LSDやったときも、これほど我知らずじまかったぜ。

もちろん、クワイマックス、中川梨絵の自演ツーン。

伊テイ夢の逆巻く渦に人のこころの糧を指す。甲斐ない男のふるまいに、卑
怯よ! と叫んであふれる。しのぶちゃん。

性映画!?! のアンソロジー。「昼顔」バツグン。ベッドツーンは『でんき
くらげ』の、川津裕介と渥美マリの回転ベッド子造りツーン。失神演技は
『甘い暴力』エルクソマー。と決ってあった。でも、中川梨絵は一頁を加えてし
まったのだ。わからちるソ。



そしてファースト!になるわ

ちっともゆからんのが田中登。

イキイキ生身の中川梨絵を、まるで人形同然の扱い。群女乱倫のオブジェ映画『牝猫たちの夜』はサエてるけど、人形使いのテのひらでモニターツェされちゃうほど、中川梨絵は〈群女〉じゃない。なんや知らんけどチゴウてるのどちやいっか。(♁女郎賣め地獄)

あれ中川梨絵を親に行ってるの。田中登の小賢い様式に押さえ込まんといや欲しいワ。放っておいても中川梨絵、キーンと自分のスタイル知ってる。好きなようにさせといたげなアカン。全く惚れた女には弱いテエ。

5つの銅貨を知ってるかい? by ♁YAS

『5つの銅貨』は、希望と夢と音楽と、涙と、笑い、そして、愛の映画であり、歌なのです。それは、ハリウッド映画が、最も大切にしたものだ。だから、『5つの銅貨』には、愛と夢の創造所、ハリウッドの“心の歌”が感じられるのです。

This little penny is to
wish on
and make your wishes come
true

最初の銅貨は「希望」です。ハリウッド映画は、ピピエさんのパツミスムとは正反対の「希望」がある。昨日は、米映画『110番外交交点』を見たのだ。で、もう、ここには、サツバツとしたムード。どうしようもないようなやりきれなさ。残酷さが、いっぱいにつまんで、見終った時は「ユウウツな気分になって来やがったな」なのです。それで、同じ米映画でも、ハリウッド製の『ポセイドン・アドベンチャー』となると、ガウ!!とかわります。けんかしながら、どなり合いながら、向き合い、助け合、脱出して行く。希望だけにすがってなんとか生きようとする彼らの姿は、やはり、僕は、単純に、感動してしま。たとえ死んでも、希望だけは捨てられない。と語っているようでね...

This little penny is to
dream on
and dream of all you can do

2つ目の銅貨は、「夢」の銅貨。「夢」は何でもかたえてくれる。『オズの魔法使』では、ドロツを不思議な国へ、つれて行ってくれる。帰ろうとして、黄色い道を行くと、グリムマンやライオンやカカツがお供することになる。なんか桃太郎みたい。きびだんご食べたくなったな? なんで関係ないね。そして、悪い魔女をやっつけて、いい魔女の魔法で、ようやくお家へ。でも、夢だった。「知恵と勇氣とやさしさ」(MAO)を持ってれば、何でもできるさ!!という「希望」と「夢」が、なんと言うか、いいな。他に『虹をつかむ男』(ダニー・ケイ)や『不思議な国のアリス』もあるねー。

This little penny
a dancing penny
See how it glitter and it
glows
As bright as a whistle,
light as a thistle
Quick quick, as a wink,
up on it's twinkling toes

3つ目の銅貨は「踊る」銅貨。明るく輝き、きらきらまたたく、「踊る」銅貨。踊りと言えば、タップダンス。タップと言えば、ツーン・ケリー。29

ツーン・ケリーと言えば、MGMP-サー・フッド・ミュージカル映画。みなさん、MAOに、カンパして、MGM総括ミュージカル篇を読みましょー（CMでした。なんで、ソナロー!）。『雨に唄えば』で、ツーン・ケリーが、"ビ・レイノルズ"に恋の告白をしようと歌うツーン。
 "you were meant for me" をすぐ思い出すな。あの軽やかなタップ。やさしいメロディー。美しいセットの田園。『錨を上げて』でも、『ロミオとジュリエット』風のバルコニーがあって、上にいるキャサリン・グレイスンに、逢おう、と踊りまくり、ハルを越え、屋根をつたい、キャサリンにキスをするツーン・ケリー。いいな。喜びが、希望が、夢が、全て踊りになっている。体いっぱい、はちきりぞうに踊る、ツーン・ケリーの姿にやはり、感動してしまっただな。

Oh, This little penny is
 to laugh on
 to see that tears never
 fall

4つ目の銅貨は、「笑いの銅貨。笑いにいろいろある。ドタバタや、ブルー・エドワーズ」の好きな不



5つの銅貨

(THE FIVE PINNIES)

ダニー・ケイが久しぶりに出演するこの映画は、アメリカのバンド・リーダーとして有名だったレッド・ニコルズの伝記映画。ニコルズは今も健在で劇中のトランペットは彼自身が吹きこんだものだが、なんといってもルイ・アームストロング、ボブ・クロスビー（ピングの弟で楽団指揮者）など一流メンバーが勢揃いした点が音楽ファンの見逃がせないところ。題名はニコルズが組織したバンドの名で、かつてグレン・ミラーなどもその傘下にいた。ケイにバーバラ・ル・ゲデス、新星チューズデイ・ウエルドが共演している。

茶理スレキガイコメディ。ブラックユーモアもある。でも、いちばん僕の好きなのは、涙と笑いのワイルダーです。フランク・キャプラの『ポケット一杯の幸福』（アグネスの新曲みたいだ!! ビバ、アグネス!!）も大好きな一本だ。俗に言うツェエーション（状況）コメディです。'30年代のルビッコやマックケリイから始まり、キャプラ、ワイルダーと系譜付けられる。（まあ、こちらのことは小林信彦大先生の「笑う男。道化の現代史」を読みましょー）。『ポケット一杯の幸福』の話は、こじきのリンゴ売り、アニー婆さんの娘が、貴族の婚約者と一緒に、婆さんに会いにやってくる。そこで、リンゴを買うといつも幸福だと信じているギャングの2枚目デュークが、1週間だけ、婆さんを貴婦人にして、娘と婚約者をだます... というものだ。いろいろなハプニングがあって、ラストは、大ハッピーエンド "Full of happiness in pocket" になるわけ。とにかく、デュークがなんとかバラさずまいと必死になって走り回るおかしさ。部下のピーター・フォークが、やたら「あーあ、破滅」「絶対にばれるぞ!!」「失敗するのはわがきつてる」といつくつくく言って、いやもう笑った。でも、アニー婆さんが、もうだめだと思った時、町ぐるみで、婆さんの嘘に協力するあたり、感動して、ホロリと来たな。『男はつらいよ』ムードのアメリカ版なんだな。僕は、これを、NETの日曜洋画劇場(TV)で見たんだけど、その時、流長さんがこんなこと言った。「普通のギャングは悪いことして人を泣かせる。でも、2枚目ギャングのデュークはいいことして人を泣かせた」とは。「画面いっぱいにあふれる笑いと涙と幸福」なのです。

This little penny is the
 last little penny
 and most important of all
 For this penny is love on
 and where love is heaven
 is there

そして、最後の5つ目の銅貨は、最も大切な「愛」の銅貨。『5つの銅貨』は、「愛」の映画です。

夫と妻の愛。父と娘の愛。母と娘の愛の映画です。小見マコの娘ドロシーのために、音楽を捨てて、半生を娘の更生に尽したレッド・ニコルズ。この映画はもう僕の生涯の10本に入る大好きな感動的な映画ですね。ニコルズが、なかなか寝ない娘に "The five pennies" を唄ってやるシーン。レス・アムストロングと、ダニー・ケイがかけ合いでトランペット吹いて "聖者の行進" などを歌うシーンなど、フラッシュバックのように思い出す。(なんて言っているけど、実は、TVで2回見ただけなのよー)。ラストは、もう涙が流れてどうしようもなかった。娘も大きくなり、ニコルズは復帰しようとする。しかし、昔のようにコルネットを吹くことはできない。でも、妻のポビーに励まされ、なんとかカムバックする。そのカムバック最初の日。娘を前にコルネットを吹くニコルズ。ポビーが "5つの銅貨" を歌い、ニコルズと娘ドロシーが小見マコの足で、一諸に踊る。ヨロヨロと。ポビーの胸がいっぱいになり、涙を流し "5つの銅貨" を歌う。その時、ニコルズの心には、娘に尽した悔みはなかったろう。歩ける娘と一諸に踊るニコルズの姿。そして2人をじっと見つめ歌うポビー。ニコルズからドロシーへの。

ポビーからドロシーへの。ニコルズとポビーの愛が、この画面にあふれ出していた。そこへ、レス・アムストロングも応援にかけつけて、大ハッピーエンド、感動の幕切れとなるわけだ。ほんとに泣けたなー。僕は、感動するなー。

もうためだ、死ぬしかねえ、なんていうなげやりさより、生きるんだ!! と励ましてくれる「おさささ」が好きだ。絶望だ!! という、諦めより、明日になれば、何かいいことがあるさ!! といったオプティミズムが好きだ。何をやってもダメダメ。それでもいいじゃないか。それでも。5つの銅貨を知ってるだけで、知らないよりは、いいじゃないか。告白するけど(な-ん-と-キ-ト、オ-ケ-サ、ソ-ナ-ロ-!) 今の僕には、なんか夢も希望も、音楽も、笑いも、「愛」でさえも、ないんだ。(と思ってるわけよ、ウム)。だから、よけいに "5つの銅貨" が心にしみ込むのかも知れないな。だから、

So with just five pennies
of they're these five
pennies
you'll be a millionaire

ということです。

1974年6月12日 外は曇り、ア、YAS

サウンド・イン・ファンタジー

徳木吉春

[74.7.30] 31

ファンタジーの中の音。ファンタジーとは、S.F.、ホラー、そして文字通り、ファンタジーを含める言葉であり、音とは、主題歌、効果音、台詞他あらゆる音を指す。

サイレント時代の恐怖映画の恐怖効果として、マイク・アップとチャードー効果がある。マイク・アップでは、その恐ろしい顔を作るほど効果が上り、観客はよろこぶ。恐ろしい容貌をして有名になったのが、性格俳優、ロン・チャーター(SON)である。彼は、「十の顔を持つ男」と呼ばれるほどの役者で、とりわけ、『ハートルダムの悪魔男』(二十三年)、『オペラの怪人』(三十五年)は、怪奇映画の元祖として名高い。この伝統は後に『フランケンシュタイン』(三十一年)の傑作を生む。チャードー効果とは、影を作ることによって恐怖感を作るのである。美女に忍びよる影、猫の影、ギロチンのシーンでの影、など使い方は多種多様である。これらの効果は今にも使われている。

トキー時代になると、音の効果が、幅をきかす様になる。例えば、狼の叫び、雷鳴、戸のおく音、などの擬音効果がある。そして、全編に流れる音、これらは恐怖場面には、それらしい音を出して、気分を出す。



Yellow Submarin Festival

「ビートルズ」はかくも偉大であったことをあらためて
知ってホッとする市民連合 後援/日本楽器四国店

PLACE: 高松スカラ座

DATE: 8月13日
6時30分

「イエロー・サブマリン」上映のために、われらが市民連合が出した広告

by 山内 豊

この度、私たちは「ビートルズ」はかくも偉大であったことをあらためて知ってホッとする市民連合なる会を発足し、その第1弾として、映画史のイポック・メーキングになるであろう「イエロー・サブマリン」を高松で上映することになりました。「イエロー・サブマリン」が映画史のイポック・メーキングに?と実に原初的な疑問を持ち、私たちの表現がオーバーであると異を唱える方もあるかも知れませんが、そういうことばが出るのも無理ないことです。なぜなら我が日本では、アニメーションという分野は動く漫画あるいは動画ぐらいにしか理解されていないからです。ところが「イエロー・サブマリン」は、絵を動かせることのみならず主眼があるのではなく、絵も色も音も、すべて「ビートルズ」の世界を表現するための諸要素にすぎないという、ある程度ハイブローな表現意欲に燃えた作品だったのです。全篇これらみちみきと衝撃(ショック)の世界だと言っても過言ではないでしょう。こういう素晴らしい

い機智をスクリーンの底に隠し持った作品が不幸な紹介のされ方をする例は、わが日本では、日常茶飯のこのようになっております。

しかし、数年前に封切られたこの作品にもう一度スポットを当てることは、どういふ誤解をとくに今が一番の状態です。ビートルズがポップスに与えたみちみきと衝撃は衰えることなく、いやぞればかりか、ますますその偉大さを私たちの目に認識せしめ、またそのビートルズの功績に共鳴し、感得することによって作られた「イエロー・サブマリン」を見ることは、映画にとての重要な要素を理解する第一歩となるでしょう。

あらゆる芸術の根本をなすものはアニメーションです。音楽と映画が幸福なる結婚をしたアニメーション「イエロー・サブマリン」をぜひ見ていただきたいと思ひます。

(1964年7月)

Jolly, Andrews

鉄屋彰子

コラーッ! テツヤ!! 何ばしょうとかいなこの子は。

— こんな歌がヒットして、私の名前も全国に広まり、“輝く日本の星”(?)になったような気がする。とは言うものの毎日毎日怒鳴られてばかりで、おまけに人前で名前を言うと笑われてしまうのだから喜んでばかりはいられないのだ。こんなアホなことがおますやろか? とボヤきながらこう歌う。—

ワツハー カツテコノヨナ、ヒサナ歌を聞いたコトガナイ—

でも私だって、何もせずにヤクザ映画に狂っているバカ人間、少々身につまされることではある。私のバカさ加減といったら自分でも感心する時がある程だから相当なものだ。いい年して… と思ふこともあるが、これが私の生き甲斐なのだ。

『スティング』がアカデミー賞を取ったこともあって、近ごろツョーツ・ロイ・ヒルのことが雑誌によく載るようになった。それを見て、そうだ、私が一番初めに狂ったのはツェリー・アンドリュースだった、『ハワイ』や『モダン・ミリー』を何度も観たっけ、あれは J.R.ヒル 監督作品だったんだな、と改めて感慨を深くした。私が映画ファンになるそもそものキッカケが『サウンド・オブ・ミュージック』を観たことにあるのだし、狂い初めでもあるのだ。もう、LPを買ったり スクールを求めたり、その当時考えうる最大限の努力をした。宣材の種類など知らなかったし、配給会社にアタックもしなかったため、今調べてみると、それほど集まっていなかった。ただ、LPの方はかなり力を入れた。日本で発売されたものはほとんど持っているし、輸入盤も買った。ミュージカル・スターとしての歌に惚れていたためだと思ふ。

少々クセがあるけど、聞き惚れられる歌い手の一人なのだ。今じゃ、バーブラ・ストレイザンドの方が有名だけれど、私にとっては J.アンドリュースがすべての点で上だ。『暁の出撃』公開以来、映画から意欲が削がれているし私自身もファン雑誌を熱心に読まなくなってしまったから、以前程は狂っていない。それでも、童話を出版したと聞けばわざわざ取り寄せることや、テレビのスペシャル番組は必ず録音している。こちらに放映されていない『ツェリー・アンドリュース・ショウ』を是非観たいものだ。そうすれば狂い具合も変わるやうなものだ。

狂ったついでにファンレターを出し、志したころに返事をもらったこともある。第一、ファンクラブがあって その会員だったのだ。いつの間にか空中分解したようだが、会誌が残っているから良い思い出となろう。

J.アンドリュース(本当はアンドルーズと発音するらしい)の演技は? ということになると、小林信彦氏同様、『卑怯者の勲章』を第一位に推す。『サウンド・オブ・ミュージック』や『メロ・ポピンス』も良いのだが、これは演技本位ではないので除外。もっとも、バーブラのような演技一本槍というのは『卑怯者の勲章』と『ハワイ』しかないのだけれど、結局は、歌につきるのである。

これはファンのひいきめなんだけど、美しい声には二通りあって、一つがバーブラやツェッセルバエズのように響きわたるものと、他方ツェリーのように胸にしみわたるものがあるように思う。要するに、“うまい”だけの人と“感動させる”人がいるのだ。当然！感動させる人はツェリーである。(反論は無視するのだ！)

この人は知る人ぞ知るの、ミュージカル・スターであるが、どういう訳か自分の作品を映画で演じていない。『ボーイフレンド』はトキッギー、『マイ・フェア・レディ』はオードリー、『キャメロット』はヴァネッサ・レッドグレイヴ、でいずれもイメージがずれていた。すんでしまったことは仕方がないけれど、レコードを聞かたびに思うことなのだ。プロデュースの眼はツェリ？

そうかと思うと他人の作品とかオリジナル作品でスターの座をつかんでしまったりするのだから、ツェリのプロデュースはマツァオ！ いい気味だ。

そんな訳で、『メイ・ポピンズ』や『サウンド・オブ・ミュージック』との再会の日を心待ちにしている今日のごろである。

……とここで終わる予定であったが、この7月24日、NHKで放映された『ツェリー・アンド・リクス・ショウ』を観てしまったので少しふたたい。ショウ作りにかけては数段上で、その練り方はもう良く御存知だと思うので、ペリー・コモとのかけ合いについてちょっと。なんと“ツング”に始まり“ツング”に終わるツング・メロディ24曲が、メモを取る暇を与えずに歌われる。この傾向は、親友キャロル・バーネットとのカーネギー・ホールでのリサイタル以来のものであるが、アレックスも見事だし歌う方はもっと立派である。中でも、P.コモが歌った“やさしく歌って”はグラミー賞をとったロバート・フラックが飛行機の中で聞いて気に入って、早速レコード化しただけあって、サワリではなく、完全に歌ってほしいと思った程良かった。

ただ、この種のショウ番組は、完全に一人で構成されることが少ないらしくて、ゲストが何分間か占領してしまうのがなんとも残念だ。セサミ・スト리트の連中も良いけれど、やはりツェリーの歌が聞きたかったのだ。

以上ツリ切れたトボながら『純・現代歌情』のために書きました。私の言うファン・クラブとは倉敷の人が作っているものことです。念のため。

(74. 7. 25)

RINGO STAR by M.G. MAO

「ぼくはカズーリが大好き」(片岡義興・三書房版)の(カンパニー・ミュージック)の巻の第4項の最後に「悲しい歌にボクは同化することができるのです」というリング・スターのことばがある。ビートルズ・ファンという連中にきけば、まず、ジョン・レノンかポール・マッカートニが好きだと言うにきまつていくけど、ぼくは、リングが大好き。ジョン・レノン流、マッカートニが三流とした場合、リングは三流だ。しかし、三流こそ、いちばんすごいのだ——とダグ・グースも云っている。ビートルズ解散後、リングが出したアルバム「センチメンタル・チューン」(スタンダード・ナンバーばかり集めたLPで、これでリングは、まるで才能がないみたいに云われてバカにされた!)のよさがわからないうちは、もう、どうしようもない。しかし、「思い出のフォドグーフ」のヒットで、ようやく、リングの評価も高まってきて、今やマッカートニの「ツェット」をしぐ。さすが三流!

歌をわすれたルリ子

徳木吉春

悲しみの涙が あの人の幸せに 心をぬらした時
それをひとは 愛と呼ぶのでしょうか
孤独が 私の胸にあふれた時
それをひとは 愛と呼ぶのでしょうか
お願い 教えてあなた 愛するって
愛するって 耐えることなの

44年に歌われた「愛の化石」は、たちまちの内にヒットし、その年のヒット賞を受賞し、歌手として認められた。――

浅井ルリ子。本名 浅井信子を初めて知ったのは、映画ならぬテレビであった。41年に発表された『真田幸村』での彼女には、現在のような重圧感はなく若々しかった(当時26才)。私は、この作品以前に、すでに知っていたかもしれないが、この作品のルリ子こそ、私の心の中に生きる偶像なのである。『真田幸村』に続く作品は、そのほとんどを見ている。NHK大河ドラマ『竜馬がゆく』への出演が、映画でしか知られていなかった(少なくとも)彼女を、たちまちの内にテレビ・タレントにしてしまった。かといって映画への出演が少なくなった訳ではない。43年(この年は彼女にとって、一つの転機期である)には、3本と少ないが、次の年には4本撮っている(この数字は決して少なくない。しかもそのほとんどが水準以上ののできである)。このころのテレビでは、『流れる雲』『守ルモ攻メルモ』そして、後の傑作『冬物語』への前奏『90日の恋』がある。『90日の恋』でのルリ子は、すでに重圧感があり、女そのものを演じていた。

44年のテレビ進出は、はげしく、中でも『朱鷺の墓』と『薪能』の演技はすばらしく、秀作。そして、このころ歌った『愛の化石』が、ヒットする。その詩の多い歌は、ルリ子自身の歌であり、私生活の反映でもある(現在、彼女が家庭的なことは知られている。これは、偶像を打ちやぶる事実である)。翌年、映画にもなり、ルリ子旋風をまきおこした。しかも、その翌年、46年には運命的なテレビ作品、『2丁目3番地』の登場となる。なぜ運命的なのかは、ファンとして語りたくはない。映画界は不調になり、それに反して出演作は傑作が多い。『戦争と人間』『愛ふたたび』『告白的女優論』などの作品がある。47年、『冬物語』の登場となる。共演者、原田芳雄との息もピッタリで、二人の描く世界は、まさにドラマであった。二人とも日活なのは偶然か。長い時間を飽きさせず、そのラストは、演出のうまさもあり、群を抜いていた。――

朝の浜べに、二人は睡をおろしている。ぐらたりしている原田芳雄。海を見ながら、子供のころを思い出し、話し出すルリ子。そして、彼に問う。しかし彼は答えない。ルリ子再び問う。彼は答えない。ルリ子は、予感を感じながらも、ふりかえる。彼は答えられなかったのだ。海を見ながら、恋人にだけかれながら死んだ男。ちっとも悲しくない、幸せじゃないか、これでいいのだから、とでも言いたいのだろうか？ 私はドキドキしながら見た。もちろん最後は知っていたが、こんなふうにラストがくるとは思わなかった。だからこそ再放送は見ないのだ。この作品のルリ子は一日ではいえないほどすばらしかった。現在まで、これを抜く作品がないのがさみしい。

原田芳雄との共演も『3丁目4番地』『愛について』と続いた仲で、再び共演してほしい組み合わせである。(『さよなら、今日は』は共演とは言えないし、作品自体、出来も悪い) 歌をわすれたルイ子。彼女にとって歌とはドラマであり、映画なのである。現在、ひさしぶりの出演で、コメディ『夏の家族』が放映されているが、出演者のセリフの間が悪く、ツマラナイ。彼女一人が、コメディックでオモツロイのだ。8月からは『白い滑走路』に出演、彼女のイメージ通りの役で登場する。我々、ルイ子ファンにとっては、ひさしぶりの歌が聞けるわけであり、成功を願わずにいられないのである。

潮騒の音も かもめの声も
私の傷を いやしてはくれない
砂丘に空しく 風が吹きぬける……

映画『愛の化石』より ルイ子のイメージ

[74.7.29]

THE SENTO

by KEN

どこかに歌はありませんか? と捜したところ、身近なところにあるもので、さっそくその場の味をカミしめる。いたいたいたいた。ナツメロ中心のこの世界 — ここにはみんな生きているんだヨ — 「骨まで愛して」「知りたくないの」「星娘」「高校三年生」「細走番外地」「ラサウ-東京」「ガラスのツヨニー」「有楽町で逢いましょう」「いつでも夢を」「アンコ橋は恋の花」「東京流れ者」「早大校歌」もうとにかく何でもあります。聞こえてきます。わからぬ所は鼻歌でごまかしちゃえばそれでいい。一つのテンポとして生きている歌たち(といわせてもらう)よ、歌われるばかりの活用じゃおもしろくないじゃないか、てなわけでは何をしてもいい。仕事の後のアップクのタバコの味さ。さて今日は何が出るのやら。90円もおしくない。聞こえて来ます。あのメロディー。ああナツカツや。おじさん、アンコール! アンちゃん、手ぬぐいが落ちるぜ。おい、このガキ、ライダーはどうした。—— ぞろぞろ俺も一発! 今日は“旭”で行こう。ついてくるかあ〜い。

屋根の上からは日がさし、湯のユゲを光線が走る。頭には手ぬぐいをのせ、体は精いっぱいのはして目をつぶる。いい気持だ。へたくそな事などまったく関係ない。かえてへたくそが美声に変わる。そうだ、ベストテンがちゃんとあるんだよ。

まず、トップが何と言っても 番外地。次が出て来ました 流れ者、東京流れ者。次が来ましたの裕次郎、夜霧よ今夜もありがとう。次がごぞんじサツちゃんの 帰るかかな〜。次がそり、ひばりねえちゃん、柔で、次が森ちゃん 花と蝶。次が出て来た出て来た 仮面ライダー、ガキ達のマスコット。次がサユリ AND エキオの いつでも夢を。次が どういうわけか お正月。次がまたおかしい いもむしの歌(こんなのあるのか?) ちんせ 5,6人のガキ達がでかい声出して歌っているんだから どうしようもない。このベストテンは今日だけの命のさ。明日はもう意外なモノが出てくるから やめられない。

百恵ちゃんや淳子ちゃん、ヒビキくんや五郎くん、ヒロミくんもいましたね。あなた達や今活躍中の歌い手達には無理なのでしょう、この世界への侵入は。しかし何任かには出てくるかもしれない。なんせ何が出てくるか誰も知らない。この1時間そこの世界の中で色々出てくるあのXロデー。そう、人間が知らず知らずの内に出すヒビキの遊び事なのかな？

そろそろこの世界ともお別れだ。長居は体に良くない。また、明日も来ようかな。いたい何が出てくるだろう。こういうカケヒキがいつのまにか出来てしまうわけだ。これが俺の楽しみなのさ。そうだ、女性の方はどうなのだろう。すごく興味がわく。え、俺に行かせる気ですか。しかし知りたい女の世界。たいじょうぶ、近い内にきっと実現するはず。あのツェフ・ブリッツスだって『サンダーボルト』でみせてくれたではないか。このKENだって。

とにかくみなさん、1度あなたの近くの“セントウ”へ行ってみてください。きっと素晴らしい事があるかもしれない。ぜひ裸のツキパイを、ドカッおためしあれ。

[74. 9. 3]

● 作曲家・アレンジャー 列伝 ● ひとつしかなくても列伝なのだ!

吉田正

★宮川哲夫 = 吉田正★ まずこのコンビは、鶴田浩二のヒット曲を作った。「街のサンドイッチマン」(53)。「赤と黒のブルース」(55)。「好きだった」(56)である。「傷だらけの人生」(71)の作詞は藤田まさのだが、あろん作曲は、吉田正である。フランク永井の「夜霧の第二国道」(57)がある。次に売り出したのが三田明。「美しい十代」(63)。「みんな名もなく愛しいけれど」(64)だ。三田明も吉田正門下で、吉川静夫詞の「若い港」(64)、「明日は咲こう花咲こう」(西沢爽詞65)がある。

★佐伯孝夫 = 吉田正★ 佐伯孝夫は、藤山一郎「僕の青春」(佐々木俊一曲、33)頃からのベテラン。このコンビの第一は、小畑実「花の三度笠」(53)。そして、三浦光一「東京の人」(56)。「ああだムの町」(56)。「郵便船が来たよ」(57)、フランク永井「東京午前三時」(57)。「有楽町で会いましょう」。「西銀座駅前」。「有楽町の番地」(58)。「東京ナイトクラブ」(59)。「好き好き好き」(60)である。並行して、マヒナスターズの「夜霧の空の終着駅」(59)、松尾和子と「グッドナイト」(59)。「再会」(60)がある。マヒナスの「泣かないで」(58)は井田誠一の、松尾とマヒナスの「誰よりも君を愛す」(60)は川内康範の詞である。さて、このコンビの目玉商品は、橋幸夫「潮来笠」(60)。「南海の美少年」(61)。「江梨子」(62)。「あの娘と僕」(65)、そして吉永小百合「寒い朝」。「草を刈る娘」(62)。「勇気あるもの」(66)であり、ふたりで唄った「いつでも夢を」(62)は、まさに大ヒットした。フランク永井の「毒を恋うる唄」(65)は岩谷時子の、「大阪ろまん」(66)は石浜恒夫の詞である。—[補]フランク永井 - 宮川 - 吉田の「公園の手品師」(56)がある。

【YOTA】

星勝

作曲・作詞・ヴォーカル = ユーミン、作曲・アレンジ = 星勝、バック = キャラメル・ママ
コーラス = ツイン・ズ・スリーというのが今のところ、和製ポップスの最高のメンバー。

アレンジャーでは、服部克久、東海林修、ボブ佐久間、樋口康雄もいい。

星勝は其上陽水の歌のアレンジね。陽水ってのは、昔は唄もギターもハタクノなことで有名で、バックのバンドやアレンジャーやコーラスに一流メンバーを加えてから、まともに唄けるようになった。ハタクノというのは初期のビートルズと同じね。陽水のスタート点は、結局ビートルズのコピーだから。なんだかんだといっても、ぼくらの世代が最初に、自分たちの歌として耳にしたポップスはビートルズだから……。TV「かたぐるま」の主題曲も星勝。名曲だね。

「不幸」の歌と「うた」の「不幸」

●原田泰●

歌手たちが「不幸」を歌わなくなったのはつい、この4、5年のこのうできごとだったろうか。「不幸」を歌うとは、人生論を歌うといいかえてもよい。人生論を歌うとは、ひとつの生活の岐路に直面しての主体的な判断のありようを開示することだ。圭子は歌った。私はこう生きてきた。こう生きたい。こう生きるしかないのか、と。

少なくとも20才前の歌手たちが「不幸」を歌わなくなったのは確かだが、歌から人生論が追放されたことを最終的に確認させるのは、山本リンダである。リンダは音楽とともにゼンマイ仕掛けのフランス人形と化する。その歌詞ですら、虚心坦懐に耳をすまじさせずれば、いったい彼女が何をしているのかがわかるはずだ。男どもが「花をかかえて戸をたたたく」のはジョーとメリーさんの無声映画の世界のできごとだ。リンダは「うた」から「不幸」を追放するためにやってきた宇宙からの使者ではないかと、初めぼくは思ったのだが、実は彼女は無声映画と同様の、幼年時代からの使者だったのだ。歌から人生を追放することはある意味では小気味よいものだ。過大な期待にうちひしがれた歌からはなれて、リンダの歌は「うた」のひとつの機能をグロテスクに表現する。ここで歌は、人をきまじめな人生から逃

れさせて、ただ幼年時代の無償の行動のよろこびをかきたてるにすぎないものとなる。だが、歌から人生を追放することは可能にしても、生活から人生を追放することまで可能だろうか。

森昌子は歌う。まったく古くさい感性に支配された歌を、その意味に気づかせずに歌う。「先生」の複雑さは、酒の席にこそ似合うものだといつのが、ちょっと心をとぎすまじさせずれば解ろうというものだ。「先生」の空想的シチュエーションは、酔客を酒席にくくりつける。彼らを理解し、彼らを慕う若者などどこにもいないという気持ちで、ここで彼らは忘れさせることができるのだ。同世代の歌手のうちでは、卓抜な力量をもつ森昌子のテクニクは、しらふの若者にこの複雑さを気づかせないというアクトバットにまよげられるのだ。これは彼女の「不幸」であるばかりでなく、「うた」の不幸だ。

「うた」から「不幸」を追放した結果が、「うた」を不幸にするのは、ついに生活から人生の追放できない事実と照応しているのだろう。山口百恵の發育不全の「ケツトリ」や、樺田淳子のこまじやくれびりや麻丘めぐみのひしげた表情は、「不幸」の追放された歌に対するいらだちと、「うた」の「不幸」へのせいいっぱいの抗議を表わしているのだと、ぼくは思った。

(74・6・28)

青い果実

by GYA

まずレコード屋さんへ走って「百恵の季節」というLPのジャケットをみよう。そこにいるキョトンとした目の女の子、それが百恵ちゃんだ。写真を撮った人は、写真の僧こと篠山紀信。いまはやりの「デカい明星」や「プレイガール」等グラビア誌の百恵ちゃんも全部この篠山紀信の写真で、こんなキョトンとした、あるいはユーウツ気な、時には怨めし気な目付きと口元がなんともいえず良いのだ。

あなたが望むなら

私 何をされてもいいわ

いけない娘だと 噂されてもいい

こんな、ちょっとドキッとしてしまう歌をデビュー以来一貫して歌いつづけているのは、それが商法だと言ってしまうは“それまでだが、彼女の歌はそんな商魂をつき抜けて、むしろ冷え冷えとしたものを感じさせる。

もちろん、15才の女の子が、万感こめてこんな歌を歌ったりしたらキモ千悪いが、彼女が感情移入しそこぬたことをまるで穏そうともせず、無表情に、淡々と、そしていかに新人歌手らしく一所懸命に歌っている姿にこそ、ぼくらはドキッとさせられているのではないか。それは歌詞の意味を理解していないがゆえの無表情ではなく、そんな歌を歌わせる大人たちの意図をも鋭く見抜き、冷めやかに見下している姿のように、ぼくには思えてならない。彼女はおそらく何もかもく知ってゝいるのだ。

恋した時に 体の隅で

別の私が目を覚ますの

大きな胸に 抱き止められて

綺麗な涙 流すのよ

〈花の高1トリオ〉などと称され、流行りのツヤタレの一角に組み入れられながら、山口百恵がひとり他より抜きんで思えるのはまさにこの点による。今まで笑い話していた彼女が、歌い始めるや否や覚めきってしまうのだ。歌手は、いや歌手に限らず観られる者は常に孤独であることを、彼女は直感的に見抜いてしまったのだろうか。

とすれば、それがそも悲劇の始まりだったのかも知れない。知ってしまった者は、どこまでも行かぬばならぬ宿命を負うのだ。

そばに居れば” そばに居れば”

何も怖くない

〈誰〉の 〈そば〉に居るのだ。彼女の歌を聴いても相手の〈男〉のイメージは、まるで浮んでこない。存在するのは〈彼〉に捧げる〈女〉のイメージだけである。新曲の「ひと夏の経験」 “あなたに女の子の一番大切な物をあげるわ...” というそれに至るまで、一貫してそうなのだ。それは女の観念の世界に他ならない。〈あなた〉は具体的誰彼でなく、ただ〈あなた〉にすぎないのだ。ぼくが驚いたのは、観念の世界を覚めたまま歌える少女の登場に対してであったのかも知れない。

My Favorite Singer by M.G. MAD

★ 桜田淳子ちゃん ★

まず、名前がいい！ 桜は桃色。歌も「私の青い鳥」「三色スミレ」「黄色いりボン」とやたらカラフル。ステーツ衣装は黄色。以前は、エンツェル・ハットなんてのをかぶってたけど、今は黄色いスカーフ。いくらだと思う？ 280円也。

出身は秋田だが、もはや〈東北〉のイメージはない。TV出身というしかない。天地真理・浅田美代子はTBS、森昌子・桜田淳子は日本テレビ〈出身〉である。ぼくは、TBSは嫌いなので、ミヨちゃんより、ツェンコが好きなのだ。どういわけか、松竹＝ナベプロの歌謡映画は、TBS系のスターの方が巾をきかせてるので気に入れない！ ンナロー！

— 出演作 —

★73.6.30 『ときめき』主演 = 栗田ひろみ・浅田美代子

★73.9.15 『恋は放課後』主演 = 松坂慶子

この2本は、歌手と物語と何の関係もない少女の役で出て、ただ唄うだけ。

★73.10.7～74.4月(2クール・日本テレビ) 『てんつくてん』制作 = 井原高忠
音楽 = 樋口康雄

森昌子と共に、実名で登場。昌子と淳子のクラスの「せんせい」が前川清。前川の故郷は長崎で、帰省すると「長崎は今日も雨だった」。ヒテとロゼンも実名で、結婚してイタリアへ。その他、岡崎友紀・和田アキ子・菅原洋一・鈴木ロミツ・吉田次昭・本郷直樹・大石悟郎・水原麻記などワァー！としギョーで歌手が出てきて、歌謡界楽屋オチ・下町ホームドラマ。あくまでもいいかげんな制作態度は、TBSのホームドラマをコケにして痛快。早い話、淳子と昌子の高校進学にタイミングを合せて作ったのだ。

★73.11.3 『ひとつぶの涙』主演 = 森田健作・吉沢京子

★74.4.27 『涙のあとから微笑みが』主演 = 森田・吉沢

この2本では、『てんつくてん』の経験から、芝居もうまくなり、オーバー・アクトとハキハキしたセリフが面白いのだ。

★74.5.20 『若い！先生』17歳の花こぼし(TBS)にゲスト出演

★74— 今や、てる『求婚旅行』(日本テレビ)では薄レギュラーらしいが、不幸にして1回もみたことはない。ほんでもって、『求婚旅行』の後も、もう決まっているのだ。10月スタートの『となりのとなり』(仮題)のレギュラーなのだ。もちろん、NTV(日本テレビ)。

以上のTV・映画出演の中では、やはり「涙のあとから微笑みが」がいいのです。「てんつくてん」での森昌子とのコンビも面白かった。

映画はすべて松竹。「恋は放課後」(広瀬襄)以外は、3本とも市村泰一監督で、1作ごとに役も大きくなる。このあたり、松竹のプログラム・ピクチャ作家の目のたしかさ。「恋は放課後」は、どうしようもない、でたらめな役だった。市村のキメ細かい演出とは、比較にならない。

* * *

淳子ちゃんのTV初出演はなんなんかな? NTVの「スター誕生!」決勝大会に淳子ちゃんが出場した直後、同じくNTVの森田健作のシリーズを担当してるプロデューサーが、「スター誕生!」のプロデューサー(井原高忠だろ)に、彼女も『おこれ!男だ』(森田主演)のレギュラーに使いたいと申し入れたという。役まで決まっていたが、結局、実現せず。たがし、73年の夏休みに『おこれ!男だ』のゲストとして出演するという話があって、こちらは実現したのかもしれない、これが、TVドラマのデビューでは? そういうわけで、森田・楳田コンビは、以後も映画・ステージへと続いているわけなのだ。ま、バカみたいなおコンビ。

その後、『てんつくてん』のレギュラー。『てんつくてん』がなぜ面白いかという、これははじめから(ホームドラマ)として作ってないから。TBSの「時間ですよ」etcとは、よく似てるけど、まるっきり異質なのだ。プロデューサーの井原高忠は『11PM』『うねさのチャンネル』など、ショー番組を一手にひきうけているNTVのトップ・プロデューサーで、ということは、『てんつくてん』も、当然、ショー番組として作られたわけなのだ。TBSのホームドラマは、ただでさえ小さいブラウン管の中で(精いっぱい)ツタバタするので、肩がこるだけ。なんで、みんな、あんなにバカみたいに悩んだり、ムキになったりするのだ!? イライラする! 「私たちは、こんなにもいっしょうけんめいやってます生きてます」というポーズが鼻もちならない。ムキになるヤツはみんな死ネ! ンナロー!

* * *

淳子ちゃんの魅力というか、おかしさは、そのオーバー・アクトと、元気バツバツ、バカみたい。淳子が、アグネス・チャンや浅田美代子の唄のものまねをやるのみたら、それがよくわかるのだ。♪おっかのうっええ〜ひゃたげしゃのはんなが〜なんて必死に唄い、身ぶり手ぶり表情の誇張がめっちゃくちゃ。最近も、以前ほど、ツタバタ動かないようです。なんとって16才。♪ You're Sixteen, You're Beautiful and You're Mine ~ (リンゴスター, You're Sixteen)

芝居はというと、ひびょーに芝居じみて、『てんつくてん』での森昌子とのコンビは、漫才のくぼけとくつこみみたいな、ヘンな面白さがあったわけ。彼女は、秋田の中学校では、演劇部において、あのバカみたいに迫力あるセリフ回しは、昔からなのだ。あのバカバカしさ、迫力、エネルギーには、正直いって、私の負けです。一口でいって、おかしな女のコなのだ。彼女自身「あたし、ヘンな女のコのままでもいいのよ!」と自覚しているのだから、やっぱり、ヘンな女のコです。

— CF —

お子様用リップ・スタックのCF, プリンのCF — と、みんな、バカみたいなカワイ
みたいな大きな口をあけて面白い。鈴木清順が撮った、紀比呂子の「山証希
よろしく!」の二代目もやってます。

— レコード —

淳子ちゃんの唄は、ハタクソなことではローハキの浅田美代子・風吹リツェンより
はマツとしても、まァ、やっぱりハタクソねエ。「花物語」なんかは、唄よりも
ナレーションの方が、はるかに聞けるぐらい。朗読は、うまいのだ。唄はハ
タでも、歌詞のひとつひとつは、他のどんな歌手よりも明瞭に聞きとれる。
「黄色いリボン」だけは、リズム楽器とブラスが調子よくて、わりといい曲なので
ハキハキ唄う淳子ちゃんにピッタリ。振り付けはチャールストンのアレックスで、これもいい
のだ。しかし、ダブル・レコーディングをよく使うのは、やっぱりハタクソな証拠。

《黄色いリボン 阿久悠×森田公一× 榎田淳子》

Handwritten musical score for the song "Yellow Ribbon" (黄色いリボン). The score is written on four staves in G major, 4/4 time. Chords are indicated above the notes. The lyrics are written below the notes.

Lyrics:
 かぜになびく きいろいリボン おかきかけらぬぎわらぼうし
 まっとなたまとべにもたぬ こんなめたしみていてくれる いそいで
 いきたいの あなたの むねにとびこみたいのよ
 めいりぼん みえるさほう ラブサインの まってこね

— 結論 —

榎田淳子主演で青春歌謡ミュージカル・コメディを作るべきだ! 『ナック』のリタ・
メツハムみたいな、ハンな女の役がいいと思うけど — 誰か文句あるか?!

— 蛇足 —

いい年して、ツェンコだツェンツァだアグネスだ — などと騒いでいるのは、アホらしく
もみっともなさいことだと、自分でも知っているつもり。けど、そんなことは気に

しないのだ。大体、いわゆる演歌というか、オトたちの唄にしてからが、「そして神戸の後に聞くものなし。みんな、ひどく退鬱的になって、「うそ」とか「うすなさけ」なんてのは、エプロンだのパツマだのと、世帯じみでいて、みんな上村一夫が悪いのだ！ンナロー！ マァ、オトたちの方が、最近は何知らずでみっともなく、ゴドモたちの方がまともだ。

淳子ちゃんが、他の同世代のタレントと異なるのは、ファンの声援なのだ。唄の合い間に、一斉に、しかし必ずしも熱狂的ではなく、「ツェンコ！」もしくは「ツェンちゃん！」(と叫ぶのは、彼女と同世代のファン)と声がかかるのだ。

〽風になびく〜黄色いリボン(ツェンコ!)という調子。しかも、スタジオ録画となると、いい年したオトコたちが、声をそろえて、むかえ目に「ツェンコ！」とやる。みっともなさをのり超え、恥を知りつつ(ここが微妙なのだ)、それでも親しみをこめて「ツェンコ！」なのだ。いじらしいではないか、この勇氣!? この連帯!?

とにかく、こんな風に声援をおくられる歌手は、淳子ちゃんしかないのだ。アグネスやモモイやミヨちゃんに対する声援は、もっと、わめくようであったり、唄のリズムを無視したり、不ぞろいであったりで、ツェンコ!とは、微妙にニュアンスが異なるのだ。また、女のコたちが、ヒデキー! ひろみー! と叫ぶのは、決定的に、ちがうのである。

東大に「山口百恵ちゃんとお友だちになる会」があり、早大には「梅田淳子を守る会」がある。このチガイなのだ。早い話、こんなことは、ファン意識のありように関する事なんで、関係ない人にはどオでもいいのです。誰にも文句は云わせねエ!

(74.8.8)

プカプカ ④

by GYA

このあいだ、新開地で行われたオールナイトのコンサートで浅川マキが「プカプカ」を歌った。マキは途中で詰ま、てしまって、ひと言、こうつぶやいたのだ。

「... いい唄だね」

桃井かおりの唄う「プカプカ」は嫌いだ。解、てたまるか、と思ってしまう。男心は男でなかな... という訳では、勿論ないのだが、「プカプカ」に関する限り、桃井かおりは飽くまで(歌われる)側であり、自身が歌ってしま、てはいけな、いのだ。

俺のあん娘は タバコが好きで いつもプカプカプカ
身体に悪いから 止しな、て言、ても いつもプカプカプカ
遠い空から や、って来、て言、う
幸福、て奴が あ、た、い、に解、るま、で
あ、た、い、タ、バ、コ、止、め、な、い、わ プカプカプカプカ

『青春の蹉跎』では、桃井かおりでなく赤座美代子が歌っている。元学生運動の闘士。恋人はいま獄中に居るセクトの幹部。スナックの歌手をしている。彼の子供が居る。それとは知らず、彼女に惚れ、やがて同棲することになった河原崎健三、訪ねてきたショーケンにボノリとつぶやく。

「童貞捧げて、子持ちで転がり込まれちゃ合わないヨ」

それでも、子供をあやしめながら結構楽しそうなのだ。男というのは淋しいもんだ。

俺のあん娘は 男が好きで いつも Hm m m...

俺らのことなんか 放ったらかしで いつも Hm m m...

あんたがあたいの 寝た男たちと

夜が明けるまで お酒呑めるまで

あたい男止めないわ Hmm Hmmm...

淋しさのつれづれに、唄を歌って、酒呑んで「女は要らネエ。俺には他にやることあるんだ」と言い聞かせてみる。それでもやっぱり、忘れるものかと心の中では、思い居直っているとき、そんな心中をそっと察して、傍で1曲歌ってくれる女であって欲しい。

俺のあん娘は スイングが好きで いつもズビズビズワ

下手くそな唄は 止しなめていても いつもズビズビズワ

あんたがあたいの どおでもいい唄を

涙流して 解ってくれるまで

あたい唄は止めないわ ズビズビズズビズワ

でもぼくは涙なんか決してみせないだろう。嘆息ぐらいはつくかも知れない。「カクカ」の前半部みたいに。そしたら歌ってくれたかの女は、後半部みたいに反論して、ぼくはまた、ひときり長い嘆息をつくのだ。

(74.7.23)

フーセンオバケ vs 森昌子

by M.G. MAO

天地真理・浅田美代子・風吹ツェンとつづく、詭もなくニコヤカで、ブルー・ツーンズが似合って、カラ・グラビアに年中顔出して、歌手でもないような、俳優でもないような得体の知れぬカワイコちゃんを嫌いだ。気持ち悪い。ぼくは、こういうのを《フーセンオバケ》と呼んでいるのだ。で、それに比べると、森昌子なんてのは、タヌキ呼ばわりされながら、ある程度作りあげられた下町のイメージを売り物にしながらも、それでも、本当にココロがあるよ。ステーツ衣装なんて作らず、ほとんどふだん着かゆかたで唄って、これはやっぱり〈作りもの〉じゃなくて、飾りようがないから、当り前のカッコで当り前に唄ってるんだと思う。森昌子が、ツーンズで唄ったり〈明星〉のカラ・グラビアで水着になるなんて考へられないものね！そのくせ、演歌でもポップスでも、どんな唄もコピーできるんだからすごいよ。微妙な発声、表情、顔かたち、すべて完全にコピーするのだから天才的。衣装やカツラをつけるとますますぞろり。しかも、特に努力せず、ただTVで他人の唄をきくだけで、それをそのままコピーできるのだから奇跡的。いじごあゆみもそうだけど、ものまねのうまい歌手は没個性——といわれるけど、それはちがう。どおでもいような唄い方ではなくて、素直なのだ。長谷部容春が ツヨさんがコピーがうまいとホメてるけど、コピーができるってのは偉大なのだ。森昌子のものまねのレコード作、重要文化財にすべきだ！『てんくてん』みても、芝居なのか、地なのか、それとも、カメラの前で自分自身までコピーしてるのか、わかんない。ホケーとしたキャラクターで、ピーナツ・チームに入れそうなんかんじね。

● 井上陽水 ● 不思議の国の万華鏡 ●

● 鏡地獄脱出論 ●

by YAS
ア! 流れ星 ☆

昔々「赤頭巾ちゃん気をつけて」という本(映画も)があった。その中で、主人公の薫君は、人生には、3つの型があると考えた。ゴマスリ型と居直り型と逃亡型。そして、薫君は「ゴマスらず、居直らず、逃げ出さず、第4の人生はないものだろうか」と悩むのだ。僕の場合は、どうだろうか? とふと思う。そう、僕は、内心は「居直り型」で表面は「ゴマスリ型」だろう。そして、何よりも「逃亡型」にあこがれている。何よりも、脱出に、あこがれている、と思うのだ。何もできず、自滅するのを待っている僕は、とにかく、脱出にあこがれているのだ。第4の人生なんて、どうでもいいのだ。まず、脱出することだ!!

そんな「脱出」に、いつもあこがれている僕は、蔵原惟禧さんの映画にあこがれる。明に、典子に、あこがれる。「憎いあんちくしょう」に『黒い太陽』にあこがれる。フリーカメラに貪りあこがれる。そして、今、僕は、井上陽水の歌に、僕と同じ、いらだた脱出のあこがれを、すごく感じてしまうのだ。

じっとしていれば自滅しかない。それでも、何もできず、自滅して行くのを待っている。外は吹雪だ。外に出れば、暑さでひぼした。恋人に逢いに行こうと思っても、雨の中では傘がない。雨にズグ濡れになって、紙飛行機のように落ちこちてしまう。ようやく恋人に逢えば、なぜか親が出て来て、2人の仲をさこうとする。それでも、なんとかデートする。街には河も花もない。風に舞うだけだ。その内、夜になって、みんないなくなり、星さきも、帰って行く。空では、カラスが、2人をバカにして、笑っている。少女のような恋人は、あかぎのふみ切りの向うに、ある日いて、通りすぎる汽車を待つ。遮断機が上り、ふり向いた少女は、いつのまにか、大人の顔をしている。人生は、2度もないのだ……。

そんなパズミスティックな現実を、何度も、何度も、自覚して行く。じゃ、どうすりゃいいんだい。自分の部屋の鏡の中の自分にたずねてみる。彼は、脱出しろ!! と言うかもしれない。「どこへ!?!」と僕。「ここへさ!!」と彼。

パズミスティックな現実の闇夜の国から脱出だ!! どうしようもない、どうにもできない現実から、夢の中へ脱出だ!! じっとずくまっているより、はるかな、はるかな、見知らぬ国へ脱出だ!! 満員電車で殺される前に、東へ、西へ、脱出することだ!! 鏡の国へ脱出だ!! でも、鏡の国の行きつくその果ては? やはり、パズミスティックな闇夜の国だ。そしてまた、脱出をする。闇夜の国へたどりつく、と知りつつも。そうしなきゃ、だめになりそうに感じて、闇夜の国へ……。

(74.6.8.)

● 闇夜の国まで何マイル

20マイルに 10マイル

夢の中から行けるかな ●

補遺

by YOTA

(74.9.16)

— 不可能への挑戦 —

「戦後歌謡年表」は定まった史観のない、しかも統一のとれてないメチャクチャなもの。事実関係は正確を期した。参考書は、草柳大蔵「各年別風俗用語の解説」[『現代用語の基礎知識 1973』自由国民社]、鶴見俊輔他「日本の百年！ 新しい開国」筑摩書店、遠藤淳「テレビ！ テレビ！！ テレビ!!!」三一新書、歴史学研究会「日本史年表」岩波書店、古茂田信男他「日本流行歌史」社会思想社、刀根康尚他「美術手帖」72.4.25の大年表^{1916~68}。

まだまだ書かれるべき[幻の]論文は少なくない。DOC(大森一樹氏)の「ポール・ニューマンなんか嫌いだよ」というスティーヴ・マックイーン論。M.G.MAO(藤田真男氏)の「夢の国のあゆみ」といういしだあゆみ論、それに「元来、三白眼の女は嫌いなのだが、『火のうらむ頃』(NHK)を見て、山口百恵ちゃんの品の良さにひかれ、東映城のお姫様をやってもおかしくないと感じたことについて」「かつては、山下和雄のTV・映画音楽のコラスをつとめ、今や、星勝と共にアルバム制作に大活躍中の女性コラスグループ「シンガーズ・ブリー」のこと」はたまた「最近ではTVの歌謡番組の70%ぐらいはみているので、それに加えて」ガラッとかわって「ボブ・ディランや ツッコス・ツョブリンなどのユダヤ系シンガーについて」ETC. ETC. YAS(平田泰祥氏)の「伊名撮影者論」。GYA(村上知彦氏)の「歌謡曲論」。佐々木親氏の「リリイ論」。山内豊氏の本格的ビートルズ論 ETC. KEN(高村賢治氏)の「三ヒーローの魅力」なるバイプレーヤー論。LUCY(内海陽子氏)の「リチャード・ハリス論」「藤竜也論」。沢部良典氏の「かあさんの歌」(長山藍子論)。TETSU(秋本鉄次氏)の『ゲインツァー』論。

鉄屋彰子氏の文題は僕が勝手につけたもの。尚、鉄屋さんの ツット・アンドリュースのうたのベスト・ワンは『Star!』の「Someone to Watch Over Me」、そしてベスト・トゥーは『Camelot』の「I Loved You Once In Silence」です。

＊

＊

＊

森崎東の『街の灯』で、堺正章が風景にかぶせて「故郷の寝家」を唄う。歌詞の大意は「自然は変わらないのに、昔の家は朽ちてしまった」というもので、有明海に向っている五人組の物語には、ふさわしい。『男はつらいよ 奮闘篇』でも榊原ルミが、ふるさとへ想いをこめて唄っていた。花子という役名で、『街の灯』の記憶喪失中の栗田ひろみのそれと同じ。ところで、『街の灯』のじいさん(笠智衆)は、結局、有明の里に暁を定めない。三木のり平の怒りをもっとも思い、自ら身をひくかたちでもある(この時、鈴木光枝は、夕食のつもりで出したおかずを、血から重箱に移している。この心づかい！ あとで、堺正章が、ツアーに入れたゴハンと共に持っていく)。そして「パルタモス(出巻)じゃ」と再びブラツルへ渡ろうとする。その為に旧式の拳銃に一発の弾をこめて、信用金庫から金を奪うのである。

そうなのだ。帰るべきふるさとなんて実はどこにもないのである。

じいさんのカバンからは拳銃や軍人手帳が出てくる。歯ブラシなんかもあったかな。まるで横井さんのパロディ。横井さんは、「只今、帰って参りました」といった。じいさんは、「帰ってもええじゃるか」と鈴木光枝にたずねる。横井さんは、横井さん自身の幻想の日



本帝國へ帰ってきたのである。又、横井さんは、陛下の銃を陛下に返そうと抱いてくる。一方、じいさんは、やはり陛下の銃で強盗をする。横井さんは、陛下の銃を返すのではなく、むしろ銃口を陛下に向けるべきだったのではないか。

じいさんのノルマタモス(再出発)は、強制送還というかたち。堀正章×栗田ひろみのノルマタモスは成らず。森崎東は亡郷の、亡国のうたをうたっている。そしてまた、亡郷、亡国の意識に支えられた 出発のうたも、うたいづけている。

望郷の歌に伴って 幼年時代を懐しむ歌が現われてくるものだ。ふるさととはよかった、昔はよかった、汚れを知らぬまどろみの季節 —

♪私が生きて 育ったところは どこにもあるような
海辺の小さな 港のある町よ
かもめと遊んで かもめと泣いた 幼い あの頃に
もどりたい もどりたい もう一度

(聖川 湧 詞曲 野路由紀子 唄)

どこにもあるのは、こんなふるさとのイメージだ。ディスカバー・ジャパン万才!? 地方から都会へ出てきた — そして今、「大人の世界を知らない頃に もどってみたいけど 無理から 無理なのね いやになっちゃうわ」なのだ。いやになるのはこちらである。野路由紀子もたしか北陸出身だったか。幼い頃が、何も知らない平和で暖かい、円環を閉じたような世界だったなどというのは 幻想に過ぎない。生まれるとすぐに、誰もが社会と関わらざるをえないし、また、自ら積極的に社会との接触を求めるのである。子供は、次々に新しい経験を求める。自分にとって新しいことが沢山ある。あれも、これも面白い。見るもの聞くものすべてが輝いている、喜ばしい。そんな風にして、成長してきたはずである。昔はよかったと嘆くのは、生きてきたこと自体が罪だといっているようなものなのだ。 — あるいは、これが真理かも。案外ぬ。

ところで、成長を拒否する歌もある。これは、望郷の歌・こと万才の歌とは違うのだ。幾つかの例については、この誌上で見て頂きたい。そして例えは、ビートルズ解散後のジョン・レノンの「ジョンの魂」というアルバムにも、成長への拒否 = 現実にノン! をいうこと = 不可能への挑戦が、見られるのだ。大体、レコードジャケットが幼時のレノンの肖像。「MOTHER」で始まり、「GOD」とい、これまで身につけてきたことのすべてを意匠として振り払う歌を経て ("God is a concept" というわけ)、「MY MUMMY'S DEAD (母の死)」で終わる。「MOTHER」では、母 (Mother) に、父 (Father) に、子供たち (Children) に、お別れ (Good-bye) を言したあとで、ママ (Mama) 行かないで (Don't go)、パパ (Daddy) もどってきて (Come home) と唄う。叫ぶ。祈る。しかし、ぼくのお母ちゃん (My mummy) は、ずっと前に (So many years) 死んじゃるのだ。だから、行かないで、もどってきてと呼ばれるものは、新たな母性、新たな父性、つまりは自分自身のことだと考えてよいだろう。ジョンが幼児語 (Mama, Daddy) を使っているのは、出発点にもう一度立とうということのあらわれである。「GOD」で彼は、夢は終わった (The dream is over)、ぼくは生まれ変わる (Now I'm reborn) といっている。過ぎたことをくよくよしてもはじまらない (Don't you worry 'Bout what you've done — 「REMEMBER」)。「MOTHER」に次ぐ2曲目、裸で飛び出した彼は、2曲目で「HOLD ON (しかり) ジョン」を唄うのだ! 話が合いすぎるかな?

